

第六五號

本官發滿宛電報

第六六號

貴電合第六九一號ニ關シ

豫テ本件課稅默認ノ態度ヲ持スヘキ旨御訓示ニ接シ居ルモ鐵道當局ニ於テ社報ヲ以テ公布ト共ニ即時實施スルカ如キ抜打的措置ニ出ツヘシトハ豫期セサリシ所ナリ果セル哉昨二十日附屬地内本邦人米穀商ニ於テ豫テ購入セル米穀ヲ奧地ニ輸送セントセシ處鐵道當局ニ依ル證明書無キ故ヲ以テ拒絕セラレ事前ニ承知セサルコトトテ甚タ狼狽セリ當方ヘモ陳情スル所アリ當方トシテハ御訓示ニ依リ寧口同手續履行ヲ慫慂シ彼等ノ要求スルカ如キ領事館保證ノ下一時的輸送完了ヲ驛長ニ要求スルカ如キハ爲シ能ハサル所ニシテ極メテ「オークワード」ノ地位ニ置カセタルカ幸ニ

當日分ハ料金納付濟證ヲ發給シ滯リ無ク輸送セリ

然ルニ十月以前購入ノ穀類約十萬石アリ此等ノ内其必要無カリシコトトテ料金納付濟證ヲ有セサル分モ多量ニ存スル次第ナルカ彼等ニ對シ所定ノ手續ヲ履マシムルハ少クトモ穩當ナラス或ハ現在高二付商工會議所ヲシテ證明書ヲ發行セシメ有效ト爲ス等ノ便法ヲ講シ然ル可キヤ至急何分ノ儀御回電アリ度シ

尙前政權時代ニハ兎ニ角現下ノ兩國關係ニ於テ默認ト言フカ如キ不徹底ナル措置ニ出テラルルコトハ當ニ關係本邦人ニ迷惑不利ヲ及ホスノミナラス滿洲國政府ニ於テモ結局利益ナラス地方駐在領事館ノ居住本邦人ニ對スル威信保持上極メテ迷惑ナルハ御想像以上ナリ御賢察相成様致度シ大臣、奉天、哈爾賓ヘ轉電セリ

付 滿洲国における邦人への課税問題

216 昭和8年2月6日 在滿洲国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲国における日本人土地商租權を黒竜江省
にも拡大実施する暫行弁法につき同国政府發
表について

別電 二月六日發在滿洲国武藤大使より内田外務大
臣宛第一一二号
右發表文

第一一一號

三 滿洲国との諸案件交渉
土地商租ニ關スル暫行辦法ハ本日閣議ノ承認ヲ經タル處滿洲國側ニ於テハ從來閣議決定事項ハ散會後大体新聞ニ發表スル慣例トナリ居ルノミナラス本日ノ閣議ハ鐵道問題ヲモ一併解決シ而モ該問題ハ差當リ之ヲ公表セサル關係上閣議決定事項トシテ商租問題ヲ發表シ其ノ間ヲ「カムフラージ」スル必要アリ旁外交部ノ希望ニ依リ本件ニ關シ滿洲國

側ニ於テ別電第一一二號ノ通り發表スルコトニ同意ヲ與ヘ置ケリ

別電ト共ニ支ヨリ上海、南京ニ轉電アリタシ
本電別電ト共ニ支、北平ヘ轉電セリ

(別電)

第一一二號

新 京 2月6日後發
本 省 2月6日後着

最近日本人ノ土地商租案件ノ取扱方ニ關シ地方官憲ヨリ中央ニ照會シ來ルモノ多キ爲今般中央ニ於テハ暫行辦法ヲ定メ之ニ據リ處置方地方當局ニ訓令スルコトニ本月六日ノ國務院會議ニ於テ決定シタ右辦法ノ要領ハ左ノ通テアル
一土地商租契約ハ契稅ニ準シテ之ヲ公證シ執照ヲ發給シ承租人ヨリ契價百分ノ五ノ契稅ヲ徵收スル
二取扱機關ハ各縣々長トシテ上司ニ經伺スル
三不當又ハ不正ナル思惑取引ノ阻止並ニ土地兼併ノ制止ニ付テハ關係方面ト聯絡シ適當ニ取締ル
尙本辦法決定ニ牽聯シテ日本人ニ對スル課稅及警察ニ付テ

ハ日本側トノ間ニ適當ノ了解成立シ夫々暫行的ニ解決ノ途カヲツニ至ツタ旨報告アリ是認セラレタ

217 昭和8年2月6日 在満州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

通商条約締結に至るまでの暫行的措置として
満州国政府と取極めた商租権の黒竜江省への
拡大実施に際する申合せ事項について

新 京 2月6日後発
本 省 2月6日後着

第一一三號
本使發在滿各領事宛電報
合第四五號

今般本省ノ承認ヲ得當館ト滿洲國トノ間ニ通商條約締結ニ至ル迄ノ暫行的措置トシテ大正四年南滿洲條約第二條ノ商租ニ關スル規定ヲ奉、吉南省ヲ含ム南滿洲ノ外黒龍江省ニ及ホス事ヲ趣旨トスル申合成立セル處右申合ノ實施ニハ滿洲國側ノ登記規則等ノ完成(今月末迄ニハ完了ノ見込)ヲ俟ツヲ要スルヲ以テ其ノ期日ハ追テ電報スヘキモ申合内容大

218 昭和8年2月9日 内田外務大臣より
在米國出淵大使 在中國有吉公使、在中國中山公使館一等書記官他宛(電報)

満州国土地商租暫行并法実施について

本 省 2月9日發

合第三五二號

滿洲國ニ於ケル土地商租問題ニ關シ
一、今般滿洲國ニ於テハ將來通商條約締結ニ依リ土地問題ノ一般の解決實現セラルル迄ノ暫行的辦法トシテ滿洲國側ノミニ一方目措置ニ依リ商租權(其ノ内容ハ大正四年日支條約第二條所定ノモノト同一)ヲ滿洲國全土ニ亘リ認ムル(滿洲國政府ヨリ奉天、吉林及黒龍江ノ三省ニ對シ訓令スルノ形式ニ依ル)コトトナリタルカ右ニ對シ我方ニ於テハ商租地ノ課税ニ付テハ滿洲國人並ニシテ不當ナラサルモノハ之ヲ默認シ又商租人ニ對スル滿洲國警察權ノ行使ニ付テハ我方領事館令等ニ於テ必要ノ規定ヲ設ケ内地居住邦人カ滿洲國警察法令ニ服從スルト同様ノ效果ヲ舉クルコトトスル筈ニテ右辦法ハ六日滿洲國國務會議ニ於テ決定セラレ同日滿洲國政府ハ別電合第三五三號^{編註}ノ發

要次ノ如シ詳細郵報ス

一、利權屋其ノ他ノ思惑賣買並商租二重設定防止ノ爲日本人土地商租ハ日本領事館ノ證明ヲ得タル者ニ限り滿洲國ニ於テ公照[○]スル事尤モ拓殖關係等大規模ノモノハ當館ニ於テ滿洲國中央部トノ間ニ豫メ處理スルヲ要ス

二、日本人ニ對スル課税ハ我方ノ適當ト思料スルモノハ之ヲ默認シ且滿洲國側ノ徵税ニ出來得ル限り協力スル事

三、各地領事館ニ於テ我方ノ適當ト認ムル滿洲國警察法令ヲ列舉シ右法令違反者ハ我方官憲ニ於テ處罰スル事ヲ趣旨トスル館令ヲ公布スル事

四、間島雜居市ニ於ケル朝鮮人ハ從來間島協約ニ基キ土地所有權ヲ享有シタルモ今後ハ既得權ハ別トシテ商租權ノミヲ享有スル事トナリタル事

就テハ至急貴地ニ於ケル滿洲國ノ課税並警察法令御取調ノ上特ニ帝國臣民ニ對スル適用ヲ否認スルヲ可トスルモノ有ラハ理由ヲ附シ報告相成度シ
支ヨリ上海、南京へ轉報アリ度シ
大臣、支、北平へ轉電セリ

表ヲ爲シタリ

二、本件ニ關シ將來外國側ニ於テ問題トスル場合ニハ必要ニ應シ滿洲國政府ヨリ「土地商租ハ日本人ニ限ラス滿洲國ト外交關係アル國ノ人民ハ均シク之ニ均霑シ得ル」旨ヲ聲明スルコトトナリ居レリ

別電ト共ニ壽府ヨリ土ヲ除ク在歐各大使へ轉電シ米ヨリ紐育、市俄古、桑港へ轉電アリタシ
本電ノミ滿ニ轉電セリ

編 注 本別電は第216文書の別電第一一二号の転電。

219 昭和8年2月10日 在牛莊荒川領事より
内田外務大臣宛(電報)

滿鉄線付属地内邦人煙草工場生産品の付属地外
搬出分に対する滿州国側の統稅徵收策について

付 記 昭和七年十一月二日付在奉天中野總領事代理
より内田外務大臣宛公信機密第八三九号
付属地内より付属地外に搬出の各種貨物に對する滿州国側の内国税徵収に關シ稅務監督署

營口 2月10日前発
本省 2月10日前着

合第七號

本官發滿宛電報

第六號

當地稅捐局池田事務官本日本官ヲ來訪シ今般財政部ニ於テハ煙草統稅ノ脫稅防止ノ爲小箱毎ニ封緘紙ヲ添付割印セシムルコトヲ規定シ來月一日ヨリ實施スル趣ニテ準備方訓令ヲ受ケタルカ右封緘紙ハ統稅納付濟ノ數量ニ應シ所要數ヲ製造所ニ交付シ製造所ノ手ニ依リ行ハシムルヨリ外無キ處東亞煙草營口工場ハ付屬地内ニ在ル關係上添付等ヲ徵稅行爲ノ一部ト見テ阻止セラルルニ於テハ實施不可能ト爲ルニ付右ニ對スル本官ノ意見承ハリ度シトノコトナリシカハ本官ハ研究ノ上回答スヘキ旨應答シ置ケリ
依テ直ニ東亞煙草製造所長ヲ招致シ其ノ意見ヲ徵シタル處奉天支店ヨリハ未タ何等ノ通牒ニ接シ居ラス會社トシテノ態度明カナラサレハ單ニ私見ヲ申上ケンニ封緘割印ハ小箱ニ爲スモノニシテ其後大箱ニ入レ或ハ紙包ヲ爲ス等幾重ニ

モ包裝ヲ爲スモノナレハ製造所ノ手ニ依リ其ノ所内ニテ爲スヨリ途無キカ一、新ナル工程ヲ始ムルニモ僅カ二十日間ニテハ不足ト思ハルヲ以テ新シキ手續ヲ了シ該商品ヲ三月一日ヨリ市場ニ出スコトハ到底不可能ナリ稅捐局トシテモ從來ノ商品トノ區別ヲ爲シ之ヲ取締ルコト困難ナル可シ二、新工程ヲ行フニハ工賃二萬五千本ニ付二圓位ヲ要スル外金錢ニ等シキ封緘紙ノ紛失等ヲ監督スル爲相當ノ困難ト人件費ヲ要ス三、「ストツク」ヲ附屬地内向ト添付ヲ要スル附屬地外向トニ區別スルヲ要シ從來ヨリ餘分ノ「ストツク」ヲ用意セサル可カラス從テ雨季等ニ變質スルモノヲ増ス譯ナルカ變質品ニ添付サレタル封緘紙ハ如何ニ處置セラルルカ等相當研究スヘキ問題有リト述ヘ
⁽²⁾更ニ煙草統稅カ東三省ニ實施セラルルニ當リテハ當時奉天官憲ト東亞トハ實施ニ關スル諸細目ヲ協議妥結シタル關係アルニ之ヲ踏襲セル滿洲國カ斯克出拔ニ新規定ヲ實施スルハ了解ニ苦シム所ナリト語レリ
東亞ハ永ク舊軍閥ト英米「トラス」トノ結托ニヨリ壓迫サレ來リ事變後漸ク英米ノ地盤ヲ侵蝕シ更生ノ緒ニ就キタルモノナルト其納稅額ノ餘リ多カラサル等ヨリ見テ附屬地

三 滿州国との諸案件交渉

外ニ搬出サルルモノニ脫稅物モ相當アルヘシト認メラレ滿洲國ノ新規定ハ附屬地内ニ存在スル製造所(奉天附屬地ニ小製造所二個アリ)主トシテ東亞營口工場ノ脫稅防止ニアリ無理カラヌコトト思考サルルモ何等公式通達モナクシテ三月一日ヨリ新規定ヲ實施セントスルカ如キハ不可能事ヲ強ユルノ感アリ其他之カ實施ニハ製造所側トシテ實際上ノ困難モアルヤニ見受ケラルルニ付右新規定發布及其實施期日等財政部當局ニ御確メノ上實施ニ關シ問題ヲ惹起セシメサル様相當期間之ヲ延期セシムル等實際上ノ諸問題ニ付直接當業者ト協定セシメ東亞發展ノ出鼻ヲ挫カシメサル様致度尙封緘紙添付ハ納稅ノ效果ヲ完了スルノ手續ニシテ徵稅行爲ノ一部ト認メラレサルニアラサルモ實際附屬地内(工場内)ニ於テ行ハシムルヨリ外途ナク又遼陽附屬地ニ於ケル綿糸統稅票ノ添付ヲ默認シ居ルノ先例モアリ實施ニ當リテハ之ヲ默認スルノ外ナシト存ス
大臣、奉天ニ轉電セリ

(付記)

機密第八三九號

(昭和7年11月9日接受)

昭和七年十一月二日

在奉天

總領事代理 中野 高一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

昭和七年十一月二日附 武藤全權宛往信寫送附
機密第一〇四號

件名

一、附屬地搬出商品ニ對スル内地稅課徵ニ關スル件

機密第一〇四號

昭和七年十一月二日

在奉天

總領事代理 中野 高一

在滿帝國特派全權大使 武藤 信義殿

附屬地搬出商品ニ對スル内地稅課徵ニ關スル件

所謂不當課稅問題ハ事變ノ爲立消ノ形トナリ附屬地内ヨリ附屬地外ニ搬出セラルル各種貨物ハ概ネ無稅ニテ消費セラレ居リタルトコロ最近ニ至リ滿洲側ハ突然之ニ對スル徵收ヲ開始シ而モ徵稅ノ方法ハ事變前ニ比シ寧ろ嚴格ニシテ日

満商人ト出先税捐局トノ間ニ一再ナラス問題ヲ惹起シ居リ
當地商工會議所ヨリモ特ニ別紙寫ノ通報アリタル處抑々
本件課税カ果シテ不當課税ナリヤ否ヤノ根本的解釋問題ハ
姑ク措キ既ニシテ日滿兩國ノ關係ハ從來ノ對立關係ヲ脱却
シ相互協調ノ時代ニ入りタルト共ニ滿洲側稅務官廳ノ實權
モ亦邦人ノ手ニ掌握セラレ居ル今日ニ於テ豫メ何等ノ通告
モ爲スコトナク突如トシテ如此挑發的措置ニ出ツルコトハ
甚面白カラスト存シ不取敢館員ヲ稅務監督署ニ派シ三浦副
署長ニ懇談的ニ抗議ヲ爲サシムルト同時ニ當方ノ實情ヲ詳
述セシムルトコロアリタルカ先方モ從來ノ行懸ニ關シ案外
不案内ナルト共ニ徵稅事務以外ノ政治的經濟的複雜ナル關
係ニ就テモ深キ考察ヲ爲シ居ラサル模様ニモアリ大體當方
ノ申入ヲ諒解シ早速出先税捐局ニ對シ取締緩和訓令方ヲ承
諾セルカ一方日滿關係ノ新事態ニ處スル滿洲側日系官吏ノ
立場ニ對シテモ考慮ヲ與ヘラレタシトノ申出モアリ旁附屬
地居住製造業者中ニハ事變前ノ經驗ニ徴シ其製品ヲ全然無
稅ニ賣リ捌クコトハ附屬地外滿洲人同業者ノ振合ヒ上不
當利得タルコトヲ承知シ居リ多少ノ負擔ハ已ムヲ得ストス
ル者モアリ此際長春等ノ例ニ倣ヒ包納其他適當ノ方法ヲ以

テ成ルヘク邦人側ニ有利ナル手加減ノ下ニ負擔ニ應セシム
ルコト可然ト存シ商工會議所ニ對シ同所ニ於テ今後ノ稅捐
局ノ措置振リヲ監視スルト共ニ事情ニ應シ一時的納金辦法
考究方打合せ置キタリ
右不取敢報告申進ス
本信寫送附先、大臣 公使 北平 在滿各領

220 昭和8年2月10日 在滿州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿州国土地商租暫行弁法実施の際の同国側との
申合せ事項中にある同国課税および警察法令服
從に関する適用範囲の本省側解釈訂正方稟請

新 京 2月10日後発
本 省 2月10日後着

第一二五號

貴電合第三五二號ニ關シ

貴電ニハ商租地ノ課税又商租人ニ對スル滿洲國警察權云々
トナリ居ル所今回ノ申合ハ大正四年條約遵奉ノ建前ニ依リ
滿洲國力奉、吉、黑三省ヲ通シ日本人ニ開放スルト共ニ課

税及警察法令ニ付テハ其ノ商租地又ハ商租人タルト否トニ
關セス之等解放地方居住日本人ニ適用アル次第ハ客年貴電
第三五四號同往電第四四二號及同貴電第三九七號ノ經緯ニ徴
スルモ明カナル通ナリ就テハ本件貴電訂正方御取計相成度シ

221 昭和8年2月15日 内田外務大臣より
在滿州国武藤大使宛(電報)

滿州国課税および警察法令服從義務の適用範
圍に関する本省側解釈の根拠について

本 省 2月15日発

第一〇三號

貴電第一二五號ニ關シ

一、本件ニ關シ大正四年條約遵奉ノ建前ヲ採ルノ不可ナル所
以ハ(イ)同條約カ元來北滿ニ適用無ク從テ同條約ヲ北滿ニ
及ホスコトニ付テハ新ナル國際約定ヲ必要トスルコト
(從テ樞密院御諮詢ノ手續ヲ要ス)(ロ)同條約中單ニ商租ニ
付テノミ條約遵奉ノ建前ヲ採リ他ノ事項ニ付テハ遵奉セ
サルカ如キハ諸般ノ關係上面白カラサルコト(尙條約ノ
遵奉ノ建前ヲ執ルニ於テハ例ヘハ同條約第五條ノ共同審

判等ニ付難點アルヘシ)等ニ在リ從テ本件ニ付テハ飽迄
モ滿洲國ノ一方的措置トシテ大正四年條約第二條ニ規定
セラルルト同一内容ノ商租權ヲ全滿ニ亘リ認ムルコトト
シ他方日本側ニ於テモ一方的ニ課税及警察ニ付之ニ相應
スル措置ヲ講セムトスルモノニシテ條約遵奉ノ建前ヲ採
ルモノニ非サルコト客年往電第三五四號及第三九七號ニ
依リ既ニ申進メタル通ナリ

二、今次滿洲國側ノ措置タル同國政府ノ地方官憲宛訓令(客
年關東軍參謀長發陸軍次官宛電報關參滿第五〇〇號參
照)ハ單ニ商租ノミニ關スルモノニシテ大正四年條約第
三條ニ規定スルカ如キ全般的内地開放(居住往來營業等)
及ヒ同條約第四條ニ規定スルカ如キ農業合辦經營ニ付テ
ハ何等言及スル處無キ(即チ今次滿洲國政府ノ訓令ヲ以
テ貴電第一二五號ノ如ク奉、吉、黑三省ヲ通シ日本人ニ
開放セルモノトハ言ヒ難シ)ヲ以テ右滿洲國側ノ一方的
措置ニ對應スル日本側ノ措置モ建前トシテハ同シク大正
四年條約第二條ト同様ノ範圍即チ商租地又ハ商租人ニ對
スル警察課税ノ範圍ニ止マルコトトナルヘシ即チ課税ニ
付テ見レハ本件我方ノ一方的措置ハ滿洲國側カ商租ヲ日

本人ニ認ムヘキコト並右商租ニ付テハ日本人ヨリ契約價格ノ五分ノ税ヲ徴スヘキコト等ノ地方官憲宛訓令ヲ發セ
ルニ對シ我方ニ於テ之ニ協力セントスルモノニシテ右滿
洲國側ノ訓令以外ノ事項即チ商租以外ノ場合ニ於ケル課
税ヲ我方ニ於テ默認スヘキヤ否ヤハ本件ト離レ別ニ滿洲
内地カ既ニ事實上開放セラレアリト認メ得ルヤ否ヤノ問
題ト關聯シテ考慮スヘキ問題ナリ又警察ニ付テ見レハ我
方ニ於テ館令ヲ以テ取締ルコトスル以上商租人タルト
否トニ依リ右館令ノ適用振ヲ異ニスルヲ得サルコトアル
ヘキヲ以テ此場合ニハ商租人タルト否トハ實際問題トシ
テ同様ナルコトアルヘシ

三、尙貴電第一二八號(三)ニ依レハ今次商租問題ノ暫行的解決
ノ結果トシテ我方ハ商埠地居住邦人ニ對スル課税及ヒ滿
洲國ニ輸入セラルル本邦製品ニ對スル課税等ニ付テモ商
租地ニ對スル課税ト同様ノ態度ニ出ツルコトナリタル
ヤニ解釋セラレ居ルカ如キ處御承知ノ通大正四年ノ條約
ハ鐵道附屬地及商埠地ニハ元來適用ナク又滿洲國輸入ノ
本邦製品ニ對スル課税ニ付テハ何等規定シ居ラス從テ商
埠地居住邦人又ハ滿洲國輸入ノ本邦製品ニ對スル課税等

チ此ノ趣旨ニ出ツルモノニシテ貴電(一)御指摘ノ諸點ノ如
キ御注意ヲ受クル迄モ無キ處ナリ

(二)滿洲國政府ノ地方官憲宛訓令ハ單ニ商租ノミニ關スル事
御來示ノ通りナルモノ今日奉、吉、黑三省ヲ通シ事實上日
本人ニ開放セラレ居ルノ事實ハ現狀ニ於テ論議ノ餘地無
ク從テ若シ今同ノ商租取扱ヲ北滿ニ及ホス事無ク大正四
年條約ノ適用地域内ニ限定シタリシナランニハ形式上ニ
於テモ同條約ノ實施トナリ貴方御解釋ノ意味ニ於ケル條
約ノ遵奉トナリタルナル可シ唯條約關係無キ北滿ニ對シ
テモ商租ヲ認ムル事トシタル爲南滿トノ統一ヲ期スル必
要上前項當方解釋ノ意味ニ於ケル條約遵奉ノ建前ニ於テ
課税ノ默認及警察法令ノ遵守トナリタル次第ニシテ之ヲ
單ニ商租地及商租人ニ關スルモノニ限ルカ如キ全然意味
ヲ爲ササル而已ナラス滿洲國側要人説得ノ上ヨリスルモ
一般的遵奉ノ方針ヲ採ルノ必要有リシ事客年往電第四四
二號申進メノ通ナリ

尙此關係ニ付關滿參第五〇〇號ヲ引用シ地方官憲宛訓令
(客年往電第三五一號參照)中ノ契稅其他ノ地方税ニノミ
默認ノ範圍ヲ限定スルノ根據トセラレ居ル處右ハ單ニ商

ノ問題ハ全然同條約ノ範圍外ニシテ之ヲ默認スルヤ否ヤ
ハ今次商租問題ト直接ニモ間接ニモ全然關係ナキ次第ナル
ニ付テハ此ノ點滿洲國側ニ於テモ誤解ナキ様御措置アリ度
尙本件ニ付テハ貴館主任者ニ於テ今次領事會議ニ出張ノ
本省員ヨリ委細聴取セラルル事ト致度シ

222

昭和8年2月19日

在滿州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿州国課税および警察法令服従義務の適用範圍に
關する本省側解釈の根拠に対する疑義について

新 京 2月19日後發
本 省 2月19日後着

第一五〇號

貴電第一〇三號ニ關シ

(一)往電第一二五號條約遵奉ノ意義ハ條約ノ精神ニ則リ主要
點ニ於テ大體之ヲ實施スルト同様ノ效果ヲ來タスノ謂ニ
シテ條約ノ規定ヲ文字通り適用スルノ意味ニ非ラス當方
ニ於テ本件商租問題ヲ取極メ又ハ交換公文等ノ形式ニ據
ラス兩國ノ各一方的措置ニ依リ解決スル事トシタルハ即

租地ニ對スル納稅義務者ノ選定ヲ當事者ノ自由意思ニ委
セントスルコトニ止マリ(其後商租人ヲ義務者トセルコ
ト二月十一日附公機密第一二二號附屬甲號ノ通)滿洲國
側ニ於ケル商租確認ノ措置ニ對スル我方課税默認ノ問題
トハ全然別個ノモノナル次第ナリ右ハ現ニ警察法令ノ適
用ノ範圍ニ付商租人ノミヲ別個ニ取扱ヒ得サル事實ト照
合スルモ妥當ノ措置ト解スヘシ

(三)往電第一二八號(三)ハ出產税ニ付テノミ言ヘルモノニシテ
同税ニ付テハ當方トシテハ本件商租取扱方確定ニ伴ヒ從
來我方ノ不當課税トシテ排除ニ努メ來レル特產物ニ對ス
ル出產税ノ徵收ヲ默認スルコトヲ前提トシ滿洲國徵稅援
助ノ意味ニ於テ便宜滿鐵ヲシテ代徵セシメントスルノ趣
旨ニ外ナラス敢テ大正四年條約ノ範圍外ニ屬スル輸入製
品ニ對スル課税(統稅ノ謂カ)又ハ商埠地居住邦人ニ對ス
ル課税ニ迄默認ノ範圍ヲ擴張セントノ謂ニ非ス之等ノ課
税ヲ默認スヘキヤ否ヤハ商租ト關係無ク全然別個ノ考慮
ニ基キ決定サルヘキ問題ナルコトハ元來本件商租辦法カ
前來累述ノ如ク大正四年ノ條約ノ精神遵奉ノ建前ナルニ
徴シ當然ノ歸決ナリ

223 昭和8年3月26日 在牛莊荒川領事より
内田外務大臣宛(電報)

付屬地外搬出煙草への満洲国統稅賦課に對する我が方対応策意見具申

營口 3月26日前發
本省 3月26日前着

第一〇號

本官發滿宛電報

第一二號

往電第六號ニ關シ

卷煙草統稅驗訖證規則ハ愈來ル四月一日ヨリ實施セラルル處奉天稅務監督署公布ノ同證事務規定ニハ附屬地内製品ノ取扱ニ關シテハ何等ノ規定ナキヲ以テ同社奉天支店ハ之カ取扱振ニ付奉天監督署ニ問合セタルニ同署ハ營口工場ニハ駐廠員ノ派出ナキヲ以テ附屬地境界ニ於テ驗訖證ノ消印ヲ稅務吏員立會ノ下ニ行フヨリ外ナシト稱シ輸入品同様取引人ノ店舗ニ於テ爲スコトサヘ承知セス此ノ際附屬地内工場ヘモ駐廠員ヲ派出セシムルノ餘儀ナキニ至ラシムル様仕向ケツツアル趣ナル處從來木箱ニ添付スヘキ稅表ハ納稅ト同

満洲国課稅の付屬地内外における不均衡を最小限度に止めるよう奉天居留民會陳情について

關機高第三六二三號

(4月5日接受)

昭和八年三月廿八日

關東廳警務局長

拓務次官殿

内閣書記官長殿

外務次官殿

満洲國課稅問題ニ關シ奉天居留民會ノ陳情

満洲國ニ於テ近ク在留邦人ニ對シ實施セラルルヘシトノ説アル課稅問題ニ付奉天居留民會長野口多内ハ居留民ヲ代表シ本月二十二附別紙ノ如ク在奉天日本總領事ニ對シ陳情書ヲ提出セリ御參考迄

満洲國ノ課稅ト利害ニ付陳情ノ件

今回我國ト満洲國トノ協定ニ依リ満洲國ハ大正四年締結セラレタル日支條約全部ヲ繼承實行スルコトトシ我國ハ滿鐵附屬地外即チ満洲國在住日本人ニ對スル課稅權及警察權ニ服スルコトヲ承認シ近ク實施セラルル趣ニ候處愈之カ實施

時ニ交付ヲ受ケ附屬地内工場ニテ自由ニ之ヲ添付及消印セシメツツアルニ拘ラス稅表ニ附隨スル驗訖證ニ對シ同様ノ辦法ヲ認メサルハ稅務監督署側カ之ヲ機會トシテ附屬地内ニ職權執行ノ端ヲ開カントスル底意ニ非スヤト疑ハルルノミナラス斯ル先例ハ將來各方面ニ惡影響ヲ及ホス惧アリ附屬地内工場ニ駐廠員ヲ派出セシムルコトハ絶對ニ承認スヘキモノニ非スト思考セラルルカ附屬地境界ニ於ケル消印云々ノ如キハ不可能事ナルノミナラス輸入ノ際同様ノ取扱サヘモ販賣上甚タ支障ヲ來スモノト認メラルルニ付東亞ノ製品保護上奉天總領事ニ於テ東亞支店ト稅務監督署間ニ行ハレツツアル辦法協定ヲ有利ニ導ク様致度ク卑見トシテハ稅表同様ノ取扱ヲ承諾セシムルヲ得ハ申分ナキモ若シ右不可能ノ場合ニハ監督署推薦ノ人物ヲ東亞ノ囑託トシテ採用シ之ニ驗訖表添付及消印ノ事務ヲ擔當セシムルコトトシテハ如何ト存ス

大臣、奉天へ轉電セリ

224 昭和8年3月28日 林關東庁警務局長より
有田外務次官他宛

ヲ見シカ附屬地内居住者ト附屬地外居住者トノ間ニ非常ナル差別待遇ヲ受クルコトトナリ遂ニ經濟上ノ統制ヲ缺キ附屬地内ニ退嬰ノヤムナキニ至ル結果ヲ招來スルモノト存候殊ニ日本人ハ今後大ニ満洲國地域内ニ發展セサルヘカラサル重大時機ニ際シ之カ伸展ヲ阻害セラルル取扱ヲ受クルコトハ甚タ遺憾ノ至リニ存候ニ付治外法權撤發セラレ附屬地ノ牆壁ヲ取除カルル迄ハ從來ノ如ク最少限度ノ課稅ニ止メラル様御考慮相煩度左記其ノ事情ヲ列記シ此段陳情候也

記

一、附屬地内居住者ハ満洲國ノ國稅ヲ負擔セス附屬地外居住者ハ之ヲ負擔スルモノトセハ同一地方ノ居住者ニシテ非常ナル差別待遇ヲ受クル結果トナルヘシ

二、同一企業カ附屬地内ト附屬地外トニ起リタル場合後者ハ到底存立シ能ハサルヘシ

三、居留民會カ經營シツツアル教育衛生等ノ諸事業ヲ満洲國ニ一任スル事ハ同國ノ現狀ヨリ見テ到底不可能ナリト信ス故ニ居留民ハ民會ノ賦課金ニ應スルノ外更ニ満洲國ノ地方稅ヲ課セラレ二重ノ負擔トナルヘシ

四、満洲國ニ於テ課稅セントスル其種目ハ不明ナルモ今日日

本人ト關係アル國稅ト地方稅ヲ示セハ左ノ如シ

(1) 國稅

田賦 契稅(不動産其他ノ登記料)

牙當稅(仲介業者ニ對スル稅金)

營業稅 煙酒稅 出產稅 繭稅 牛馬稅 礦稅 印花稅

鹽稅 關稅 統稅(卷煙草 綿紗 麥粉 セメン

トニ對スル稅金)

(2) 地方稅

家稅 地稅 車稅

一、右ノ中營業稅ハ其營業ノ種類ニ依リ賣上高ノ百分ノ一乃至百分ノ二、銀行業ハ資本金ノ百分ノ二、出產稅ハ從價ノ百分ノ一、五、煙草ノ如キハ其ノ品質ノ上下ニヨリ差異アルモ價格ノ百分ノ二、五以上ニシテ甚タ高率ナリ

一、今滿蒙毛織會社奉天醬園及東亞煙草會社ノ三社ニツキ調査シタル處ニ依レハ何レモ附屬地内ニ於テ賣捌カルルモノハ無稅ナルモ附屬地外ニ賣捌カルルモノハ前記ノ出產稅及統稅ヲ納付シ居レリ最近一ケ年間ニ於ケル納稅額左ノ如シ
滿蒙毛織會社 出產稅約三千圓 全生產高ノ約二割ニ當ル
奉天醬園 同 二百圓 同 四分ニ當ル

東亞煙草會社 統稅十一萬五百圓 同 七割ニ當ル

計 十一萬三千七百圓也

一、三社共生産工場附屬地外ニアルカ爲若シ生産品全部ニ對シ課稅セラルル時ハ左記ノ通り多額ノ稅金ヲ負擔セサルヘカラス

滿蒙毛織會社 出產稅 一萬五千圓 八割増

奉天醬園 同 四千八百圓 九割六分増

東亞煙草會社 統稅 一五萬八千圓 三割増

計 十七萬七千八百圓

一、右ノ外民會管内個人營業者ノ取引及營業高ハ何程ニ達スルヤ不明ナルモ尠クトモ一ケ年一千萬圓ヲ下ルコトナシ若一千萬圓トスルトキハ年額十萬圓乃至二十萬圓ノ營業稅ヲ納付セサルヘカラス又地方稅タル家屋稅ノ如キハ一、二、三等二分レ一等ハ一間ニ付毎月大洋三十錢 二等二十錢 三等十錢ニシテ日本人ノ所有スル家屋ハ大概一、二等ニ屬スルヲ以テ一ケ年一間ニ付三圓六十錢ヲ納付スルトキハ之又一ケ年數千圓ニ達スヘシ

一、現在奉天居留民會戸別賦課金ハ一ケ年一萬二千三百圓餘ニシテ一戸當リ平均二十九圓三十錢ニシテ相當ノ民會費

225 昭和8年4月7日 在チチハル内田領事より
内田外務大臣宛(電報)

滿州國課稅および警察法令服從義務の適用範圍

圈に関する問題点について

チチハル 4月7日後發

本省 4月7日後着

第三八號

本官發滿宛電報

第二三號

土地商租ノ實施ニ依リ本邦人ノ受クル滿洲國警察法令及課稅服從義務ハ土地商租人ニ限り其ノ義務ハ當該商租土地其物ニ關スル警察法令及課稅(例ヘハ課稅ニ付テハ地租ノミ)ニ限ルモノト解スヘキヤ將又在滿日本臣民一般力原則トシテ商租土地關係ノ範圍外ニ亘リ包括的ニ滿洲國警察法令及課稅ニ服スル次第ナリヤ條約ノ解釋上聊カ疑義ニ亘ル節有リ我方トシテハ前者ノ如ク狹義ニ解スヘキモノト思惟スルモ萬一後者ノ如ク廣義ニ解セハ當管内ノ如ク極メテ少數ノ商租權者ノ爲ニ多數ノ一般邦人カ廣汎ナル義務ヲ負擔スルコトト爲リ殆ト治外法權撤廢ニ近キ結果ト爲ルヘク尙又狹

義ニ解シ商租人ノミ服スルモノトスルモ其ノ服スル警察法令及課税カ土地其物以外ニ亘リ例ヘハ該土地ノ上ニ工場又ハ店舗ヲ設ケ經營スル事業ニ課税セラレ又ハ土地以外ノ事項ニ付警察法令ニ服従スルモノトセハ大農場等特別ノモノ以外ハ商租ノ形式ヲ避ケ其ノ義務ヲ免レントスル(者)多カルヘク結局ノ取極モ實行ヲ伴ハサル弊有リト存スル處差當リ滿洲國警察法令課税調査上ノ必要モ有ルニ付右諸點ニ關スル御見解御同電ヲ請フ

新京ヘ轉報アリタシ

大臣、哈爾賓、奉天、吉林ヘ轉電セリ

226 昭和8年4月19日 在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲國課税および警察法令服従義務は開放地を除く土地商租を取得し得る全地域に適用すべきとの見解につき意見回示方案請

新 京 4月19日後発
本 省 4月19日後着

第四〇六號

吉林來電第七四號及齊齊哈爾來電第二三號ニ關シ
本件商租暫行辦法ハ大正四年條約ノ精神ヲ遵奉スル趣旨ニ基キ成リタルモノナルヲ以テ開放地ヲ除キ帝國臣民カ商租權ヲ取得シ得ヘキ全地域ニ亘リテ滿洲國警察法令及課税法規ノ精神ヲ尊重シ實際の辦法ヲ講スル次第ナリ(尤モ開放地除外ニ付テハ滿洲國側ニ於テハ未タ正式ニハ承服スルニ至ラス)

冒頭來電ニ對シテハ右見解ニ基キ回訓スル意嚮ナルモ本件ニ關シテハ往電第一五〇號ニ對シ何等御回訓ニ接セサル次第モアルニ付本件何分ノ儀至急御回示アリタシ

尙開放地以外ニ於テモ課税ニ付テハ本邦人密集地方ニ於テハ教育費其ノ他民會費等ノ爲本邦人ニ對シ二重負擔トナサル様滿洲國側ニ對シ適當ノ考慮ヲ拂フ様交渉スル意嚮ナリ爲念

(齊齊哈爾來電第二三號ハ同官ヨリ直接在滿各館ニ轉電アリタシ)

在滿各領事ヘ轉電セリ

227 昭和8年4月29日 在奉天峰谷總領事より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲國課税および警察法令服従義務の開放地適用除外に關し大使館側見解照会について

奉 天 4月29日前発
本 省 4月29日前着

第一〇五號
本官發滿宛電報
第九一號

大臣宛貴電第四〇六號ニ關シ

(一)御來示ニ依レハ開放地ニハ滿洲國課税權ノミナラス警察法令ノ適用ヲモ除外セシムル御方針ナルヤニ解セラルル處右ノ通解シ差支ナキヤ

(二)開放地ニ課税適用ヲ除外セシムルコトハ當方屢次申進ノ通附屬地内外ノ權衡保持上是非其實現方希望シ居ル次第ナルカ右開放地ニ城内ヲモ含メシムルコトハ我方年來ノ主張ナルニ付右ハ當然ノコト乍ラ本件今後滿洲側ト折衝ノ場合ニハ右開放地ノ内ニ商埠地及城内ヲ含ムモノト解セシメラル様御配慮アリタシ爲念

大臣ヘ轉電シ在滿各領事ヘ暗送セリ

228 昭和8年5月1日 内田外務大臣より
在滿洲國武藤大使宛(電報)

滿洲國課税および警察法令服従義務の適用範圍につき大使館の見解承認ならびに適用内容に關する具体的方針案について

付 記 作成日、作成局課不明

「滿洲國ニ於ケル治外法權撤廢ニ關スル指導方針案」

本 省 5月1日発

第三五一號
貴電第四〇六號ニ關シ

本件ニ付テハ貴方ト滿洲國側トノ話合ノ經緯ニモ顧ミ右貴電ノ「ライン」ニテ措置スルコトニ異存ナキモ我方居留民ニ對シ具体的ニ如何ナル滿洲國警察法令及課税ヲ認ムヘキヤノ問題ニ付テハ滿洲國側警察法規及租税制度ノ現狀ニモ顧ミ慎重措置スルノ要アリ仍テ右ニ關シ米澤書記官ヨリ貴館側研究ノ結果ヲモ徴シタル結果左ノ通措置スルコトトシ

在滿各領事ニ轉電アリタシ

- 取急キ我方居留民ノ遵守方ヲ希望スル具体的取締條
項ヲ提起シ來リ而モ我方領事館令中ニ同様ノ規定ナ
キモノアルトキハ我方ニ於テ妥當ト認ムルモノニ付
右取締條項ト同様ノ規定ヲ我領事館令中ニ設クルノ
辦法ヲ考慮スルモ可ナリ
- (四)課税ニ付テハ
- (a)大正四年條約ハ開埠地ヲ除外スルコトヲ建前トシ居
ルノミナラス開埠地居住外國人トノ振合モアルニ付
貴電ノ通り開埠地ハ(城内ヲ含ム)之ヲ除外シ内地ニ
於テノミ課税ヲ默認スルコト
- (b)滿洲國側課税法規ニ付テモ前記警察法令ト同様ノ事
情アルニ付差當リ先ツ(1)地方公共施設利用ノ對價ト
見做シ得ル性質ノ地方税(2)商租契税、登録税、地租
等商租ト直接關係アルモノ等ヲ税額妥當ト認メラル
ル限度ニ於テ默認スルコトトシ右以外ノ課税ハ警察
法令ノ場合ト同様滿洲國側中央及地方ノ税制整理セ
ラレ税法ノ内容判明スルニ從ヒ各個ノ場合ニ付除々
ニ默認ノ件ヲ決定スルコト

タルニ付テハ右御含ミノ上可然御措置アリタシ

一土地商租實施ニ伴フ警察及課税ノ問題ニ付テハ(イ)大正四
年條約ヲ實施セリトセハ生スヘカリシ結果ヲ生セシムル
コト及(ロ)實行可能ニシテ且無理ノ少キモノヨリ漸進的ニ
實施スルコトヲ眼目トシ之カ實施具體案ヲ考究スルコト
ニ右具體案トシテハ次ノ通措置スルコト

(イ)警察法令ニ付テハ

- (a)滿洲國側警察法規カ複雑多岐ニシテ整備セス又現ニ
如何ナル法規カ存在シ居ルモノナリヤノ點スラ調査
困難ナル現狀ニ於テ一般的ニ之ヲ本邦人ニ強制スル
ハ事實上治外法權ヲ過早ニ撤廢セルト同様ノ結果ヲ
來スノミナラス内容不明ノ刑罰規則ヲ強制スルコト
ハ法律ノ根本原則ニ違背スルモノトシテ物議ヲ醸ス
ノ惧アリ然ルニ現行滿洲國違警罰法(民國十七年七
月二十一日公布)ハ元來範ヲ我カ警察犯處罰令ニ取
リ且其ノ内容ハ我カ警察犯處罰令所載ノ事項ノミナ
ラス他國ニ於テハ寧ロ地方官廳ノ取締法規ニ委ネア
ル事項迄モ詳細ニ規定シ居リ滿洲國ノ現狀ニ於テ之
以上綿密ナル警察の取締ヲ勵行スル事ハ寧ロ現實ニ

即セサルモノト云フヲ得ヘキヲ以テ此ノ際ハ先ツ我
方領事館令ヲ以テ右滿洲國ノ違警罰法所載ノ禁止規
定ヲ遵守セシムルニ必要ナル規定ヲ設クルコト

- 尤モ右館令制定ニ當テハ違警罰法ノ内第一章總則ノ
規定、身分ニ關スル届出規定(例ヘハ婚姻關係等)、
居住營業等ニ付餘リニ煩苛ナル制限ヲ爲シ若クハ抽
象的ニ一般法令章程ヲ引用セル禁止規定及罰則等ノ
取扱方ニ付テハ種々専門的考慮ヲ要スヘキノミナラ
ス(治外法權委員會報告書第二部ノ三所載ノ同委員
會ノ意見、大正六年奉天領事會議前本省作成ノ方針
案及同會議決議等參照)本件ハ元來帝國臣民ノ人權
ニ關スル次第ナルニ付貴地司法領事ノ意見並現地ノ
事情等ヲ考慮シ慎重立案ノ上請訓セラルルコト
- (b)右違警罰法以外ノ滿洲國警察法令ハ滿洲國側ニ於テ
之等法令ヲ整備シ且之ヲ一般人民ニ周知セシムルニ
從ヒ徐々ニ領事館令中ニ取入ルルコト(例ヘハ交通、
衛生等ニ關シ違警罰法ノ規定以上詳細ナル取締ヲ規
定セル地方法規等ノ如シ)
- (c)尙滿洲國側ニ於テ前記違警罰法ノ規定以外ニ此ノ際

(付記)

滿洲國ニ於ケル治外法權撤廢ニ關スル指導方針案

(八、九、一三、ノ打合ニ基キ改訂セルモノ)

第一、方針

滿洲國ハ速ニ同國ノ法制及組織ノ充實ヲ圖リ遍ク遵法ノ
美風ヲ養成スルト共ニ對外信用ノ確立ヲ期シ以テ治外法
權ノ漸進的撤廢ヲ實現スルコトニ努ムルモノトス

日本帝國ハ滿洲國ニ於ケル治外法權撤廢實現ノ爲出來得
ル限りノ援助ト努力ヲ爲スモノトス

第二、要領

一、撤廢準備

- 滿洲國ハ速ニ(大体二年乃至五年ト豫定ス)左記ニ依リ
法制施設等ノ整備ヲ圖リ以テ治外法權撤廢ノ準備ヲ爲ス
- (イ)在滿外國居留民就中本邦居留民ノ權益ヲ充分保障シ
得ル様法制及税制ノ整備並裁判所、監獄、警察及徵
税ニ關スル制度ノ改良ヲ圖ルヲ眼目トシ大体ニ於テ
一九二六年支那國法權撤廢委員會ノ勸告ノ趣旨ニ則
ルコト

(ロ)日本人司法官ヲ採用スルト共ニ滿洲國人司法官ノ素質

第二八一號
本官發滿宛電報
第二四六號
綿糸布、麥粉、「セメント」統稅實施ニ關シ四日當業者代表者ヲシテ(一)同稅ハ事變前ヨリノ惡稅ニ付撤廢方盡力アリタク若シ撤廢不可能ノ場合ニハ徵收延期又ハ既契約品ニ對スル免稅等邦商ノ損失免除ノ方法ヲ講スル様盡力アリ度キ旨並ニ(二)將來此ノ種制度設定ノ際ニハ豫メ關係者ノ意嚮ヲ徵シ且相當ノ豫告期間ヲ設クル様滿洲國側ニ交渉アリ度旨願出ツルト共ニ本稅ヲ納付スルト否トハ本官ノ意見ニ依リ決定スルコトシ差當リ之ヲ差控ヘ居ル趣ヲ以テ本官ノ所見

229

昭和8年5月4日

在ハルビン森島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

滿州國の綿布糸・麥粉・セメント統稅の納付は
やむを得ない旨邦人當業者に對し説諭について

爲スコト

ハルビン 5月4日後發
本 省 5月4日後着

向上ヲ圖リ以テ滿洲國司法官ノ向上充實ヲ期スルコト
(イ)日本人警察官及徵稅官吏ヲ採用シ滿洲國ノ警察及徵稅ニ關スル機關ノ充實ヲ圖ルコト
(ニ)民政部及司法部ノ充實ヲ期スルコト
ニ、撤廢ノ手續

(イ)滿洲國政府ハ前記ニ趣旨ニ依リ治外法權撤廢ノ準備ヲ爲スヘキ旨ヲ聲明スルコト
(ロ)右滿洲國政府ノ聲明ニ對應シ日本政府ニ於テモ適當ノ聲明ヲ爲スコト(其ノ内容ハ大体次項ノ趣旨トスルコト)
(ハ)滿洲國ノ撤廢準備現實ニ着手セラレ略將來ノ見透シ着クニ至リタルトキヲ見計ヒ日本國政府ハ滿洲國政府ニ對シ治外法權撤廢ニ關スル條約締結ノ交渉開始方ヲ提議スルコト
(ニ)右日滿兩國間ニ締結セラルヘキ條約ハ治外法權ノ漸進的撤廢ヲ本旨トスルコト
(ホ)滿洲國政府ハ諸外國ヲシテ右日滿條約ノ定ムル所ニ倣ヒ諸外國ヲシテ治外法權ヲ撤廢セシムル様合法的手段ヲ講スルコト

ニ、撤廢迄ノ過渡の辦法

日本國ハ治外法權撤廢以前ニ於テモ治外法權ノ存在ニ依リ滿洲國ノ蒙ルヘキ不利不便ヲ出來得ル限り緩和スル目的ヲ以テ左記其他適當ナル過渡の辦法ヲ講ス
(イ)滿洲國ノ課稅ニシテ日本國ニ於テ適當ト認ムルモノニ付テハ本邦人カ之ヲ納付スルコトヲ默認スルト共ニ右ニ付成ルヘク滿洲國側ニ便宜ヲ與フル様考慮スルコト
(ロ)滿洲國ノ法規ニシテ日本國ニ於テ適當ト認ムルモノニ付テハ成ルヘク之ヲ日本側領事裁判ニ適用シ得ル様日本側ニ於テ必要ノ措置ヲ講スルコト
(ハ)阿片麻藥類ニ關スル滿洲國ノ取締規定ノ徹底ヲ期シ又滿洲國日系官吏ニシテ其ノ地位及職權ヲ濫用シ(例ヘハ瀆職事件)而モ日滿兩國共ニ之カ處罰ノ方法ヲ缺クノ現状ヲ匡正スルノ必要等ニ顧ミ是等ノ事項ニ付テハ必要ノ保障ノ下ニ滿洲國政府ニ裁判管轄權ヲ回收セシムル様日滿兩國間ニ所要ノ協定締結方ヲ考慮スルコト
(ニ)司法上ノ協力ニ關シ日滿兩國官憲間ニ所要ノ取極ヲ

230

昭和8年5月6日

在滿州國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿州國警察法令服從義務を開放地にも適用す
べき意見具申

新 京 5月6日後發
本 省 5月6日後着

奉天發本使宛電報第九一號ノ(一)ニ關シ

今次ノ商租暫行辦法カ大正四年ノ日支條約ノ精神遵奉ノ建前ナル結果理論上ハ滿洲國警察法令ノ開放地適用ヲ除外スヘキ筈ナルモ實際上ノ問題トシテハ同國警察法令ヲ我領事館令中ニ引用スル事トナル可キ爲當該館令ニ於テ開放地ヲ除外スル旨明示セサル限り館令カ附屬地外一般ニ行ハルル關係上開放地ニモ滿洲國警察法令ノ實質的適用ヲ見ル事トナル可シ右ニ付テハ課稅トノ均衡殊ニ外國人トノ振合上純理論トシテハ開放地除外ヲ正當トスヘキモ警察法規ノ服從ハ其ノ苦痛ニ於テ課稅ノ如キ金錢的負擔ト全然其ノ性質ヲ異ニスルノミナラス今日日滿警察相互協調ノ實情殊ニ滿洲國警察法規ト言フモ我法規タル館令トシテ之ヲ施行スルモノナルニ顧ミ寧ロ此ノ際警察法令ニ付テハ開放地ヲ除外セサル事トスル事適當ナルヤニモ考ヘラル

就テハ右ニ關シ何分ノ御意見御回答示ヲ請フ

奉天ヘ轉電シ在滿洲各領事ヘ暗送セリ

昭和8年5月11日 内田外務大臣より
在滿洲國武藤大使宛(電報)

開放地は滿洲國警察法令服從義務より除外すべき旨訓令

本省 5月11日發

第三八四號

貴電第四七〇號ニ關シ

(欄外記入)
今次ノ「商租辦法」ハ大正四年條約ノ精神實現ノ建前ニシテ從テ之カ實施ニ件フ警察及課稅ノ問題ヲ考慮スルニ當リテモ同條約ヲ實施セリトセハ生スヘカリシ結果ヲ實現セシムルコトヲ眼目トスヘキコト往電第三五一號一、ノ通ナル處警察法令ニ付開埠地ヲ除外スルコトスルモ警察取締ノ實際上左シタル支障ナカルヘキノミナラス(現ニ我方警察法規ハ附屬地ノ内外ニ依リ異ナル處警察法令ニ付開埠地ヲ除外スルモ附屬地内外ノ相違程ノ不便ナカルヘシ)實際問題トシテモ課稅トノ均衡ノ問題アル外大正四年條約トハ全然關係ナキ開埠地居住邦人ニ本件商租辦法實施ノ結果トシテ新ナル警察上ノ義務ヲ課スルコトハ種々問題トナル處モアルニ付警察法令ニ付テモ開埠地ヲ除外スルコトト致度

奉天ヘ轉電シ在滿各領事ニ暗送アリタシ

(欄外記入)

讓歩

232 昭和8年5月16日 在奉天峰谷總領事より
内田外務大臣宛(電報)

開放地を含め一律に適用すべき課稅税目および
警察法規を研究する委員会ならびに付屬地内外
格差是正のための特別市制設置方意見具申

奉天 5月16日前發
本省 5月16日後着

第一三九號

(1) 本官發滿宛電報第一一七號

大臣發閣下宛電報第三八四號ニ關シ

(一) 同電ノ如ク既ニ開埠地ヲ滿洲國警察法規ノ適用區域外ニ置ク以上ハ今回ノ商租取極實施セラルトモ事實上在滿内地人ノ大部分ハ滿洲側警察法規及課稅ニ服セサル事トナルヲ以テ内地人ニ關スル限り問題ナキニ至レルカ如キ

モ愈々本件實施ノ場合ハ例ヘハ(イ)開埠地ノ範圍其ノ地理的限界ニ關スル疑義(ロ)奥地課稅滯納者ニ對スル強制執行問題等種々復雜ナル問題ヲ生スル處アリ(閣下宛往電第一〇一號)

(二) 一方之ヲ滿洲國側ヨリ見ルトキハ既ニ開埠地ヲ警察課稅適用區域外ニ置カレ奥地ト雖僅カニ違警罪法令ヲ而モ館令ノ形式ニテ認メラルルニ過キストセハ商租ニ對スル代償トシテノ警察課稅承認ハ事實上骨抜キトナリ却テ前項ノ如キ紛議ノ種ヲ時ク以外何等得ル所ナキヲ以テ到底之ニテ満足スヘキ道理ナシ

(三) 果シテ然ラハ本件ハ此ノ際寧ロ從來ノ行掛リヲ一蹴シ滿洲國側ヲシテ眞ニ商租ノ代償ヲ得シムル爲メ

(A) 速ニ日滿兩國細則委員會ヲ設置シ同委員會ヲシテ此ノ際開埠地ヲモ含メテ適用シ得ヘキ警察法規(事實開埠地ニ對スル建築規則其ノ他ノ警察法規ニシテ日滿兩國人ヲ一律ニ取締ル方便宜ナル場合隨時生スヘシ)及課稅ノ種類内容並反則者ニ對スル取締方法ニ關スル詳細且ツ的確ナル成案ヲ作成セシメ之ヲ附屬地外ニ一律適用方兩國間ニ協定ヲ遂クル事トシ右協定ニ至ル迄ハ差

當り本件警察課税問題ハ現状ノ儘トスルコト

(B)之ト同時ニ附屬地沿線大都市ニ付テハ從來附屬地内外
兩地區ノ對立カ邦人ノ附屬地外發展ヲ妨ケ殊ニ滿洲國
成立後斯カル對立アル爲メ滿洲國側ノ邦人ニ對スル合
理的課税ヲモ困難ナラシメ居ル實狀ニ鑑ミ之等ノ弊害
ヲ除去セシムル爲メ右兩地區ヲ一括シタル所謂特別市
制設置案ヲ速進シ附屬地内外ノ居留民ヲ一民團組織ノ
下ニ右市制ニ關與セシメ(此ノ場合勿論滿鐵側ニモ充
分ナル市制參與權ヲ與フルモノトス)同時ニ右市制ヲ
シテ前條(A)項決定ノ警察課税實施ニ必要ナル強制力ヲ
附與スルコト本問題解決上將又今後沿線附屬地沿線主
要都市ノ圓滿ナル發展上執ルヘキ道ト存スルニ付全部
委員會ヲシテ之カ立案ヲナサシムルコト妥當ナラスヤ
ト存セラル卑見御參考迄

大臣、北平へ轉電セリ

233 昭和8年6月28日 在赤峰清野(長太郎)領事より
内田外務大臣宛(電報)

熱河省稅務当局の輸移入貨物への落地税賦課

赤峰 6月28日前発
本省 7月2日前着

第二四號

本官發滿宛電報

別電第二五號

承德來電

第一五號

二十三日稅務監督署副署長來訪ノ上熱河省ニ於テハ今尙從
來ノ貨物稅則ヲ施行シ居ル處近來輸移入セラルル各種物資
ハ本邦商人ノ直接取扱ニ係ルモノ大部分ヲ占メ今後モ輸送
機關等ノ發達ニ依リ益々量増加ヲ見ルヘキヲ以テ之ニ對シ
落地税ヲ課シ度キ意向ニ付何分ノ援助ヲ得度キ旨懇請セリ
依テ本官ハ大正四年日支條約附屬公文ノ次第モアリ且重大
ノ影響ヲ他地方ニ及ホスモノナルヲ以テ上司ニ請訓ノ上ニ
テ何分ノ回答ヲ爲スヘシト答ヘ置キタルカ滿洲側商人ノ取
引未タ回復セス外來貨物ノ大部分カ本邦商人ニ依リテ取扱
ハレ居ルノミナラス將來モ本邦人ノ取引増加ヲ見ルヘキハ
必然ノ勢ナルニ付我方ニシテ何等ノ名目ヲ以テスルヲ問ハ
ス一律ニ此ノ種納稅ヲ拒否スルハ少ナクモ熱河省財政ニ多大

意向に對する措置振りにつき在承德副領事請
訓について

別電 六月二十八日発在赤峰清野領事より内田外務
大臣宛第二四号
右在承德副領事請訓

赤峰 6月28日前発
本省 7月1日後着

第二三號

本官發滿宛電報

第二四號

別電第二五號ノ通り承德出張中根副領事ヨリ請訓アリタル
處本件ハ土地商租、居住、往來、營業ノ自由、警察法令ト
モ相關聯シ北滿ニ於ケル此種問題ノ如ク地方限リニテ決ス
ヘキモノニ非スト思考セラルルニ付執ルヘキ態度ニ關シ何
分ノ御電訓仰キ度シ

大臣、承德ニ轉電シ奉天、錦州、哈爾賓へ略送セリ

(別電)

ノ打撃ヲ與ヘ延テ滿洲國ノ發達ヲ阻害スルモノトモ存セラル

234 昭和8年7月3日 在滿洲国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

熱河省稅務当局の輸移入貨物への落地税賦課意向
に關し稅率等査報方在承德副領事に訓令について

新京 7月3日後発
本省 7月3日後着

第七〇五號

本使發承德宛電報

第三號

貴電第一五號ニ關シ

一度關稅ヲ賦課セラレタル本邦人關係ノ商品ニ對シ再度與
地ニ於テ課稅スルカ如キハ如何ナル名義ヲ以テスルモ我方
ノ主義トシテ承服シ能ハサル所ナルモ熱河省ノ現狀ニ顧ミ
此ノ種稅金ヲ徵收スルハ已ムヲ得サルヤニモ思考セラルル
ニ付テハ當方參考迄熱河ニ輸移入セラルル商品總額、落地
稅概算額及其ノ稅率御取調ノ上御同電アリ度シ
大臣、赤峰、奉天、吉林、齊々哈爾へ轉電セリ

235 昭和8年7月8日 在奉天峰谷總領事より
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙毛織会社製品の付属地内消費分への突然
の満州国課税実施通告について

奉 天 7月8日前発
本 省 7月8日後着

第二五〇號
本官發滿宛電報
第二二四號

(一)當地滿蒙毛織會社ハ從來其ノ製品中附屬地外向ノモノハ
出產稅一分五厘ヲ納付シタルモ附屬地内消費品ニ對シテ
ハ免稅セラレ來リタル處今般當地稅務監督署ヨリ同會社
ニ對シ中央財政部ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ七月一日以降附
屬地内外何レノ消費タルヲ問ハス一律ニ機製洋式貨稅五
分ヲ課スルト共ニ工場内ニ駐廠員ヲ置クコトナリタル
旨突然通告シ越ニテ二日右駐廠員ヲ派遣シ來レル趣ヲ以
テ之ニ對スル措置振ニ付同社側ヨリ當館ニ照會アリ一方
稅務監督署員四日來館シ係官ニ對シ本件訓令實施方當館
ノ同意ヲ得度キ旨申出來レリ依テ係官ヨリ稅務署側ニ對

内協議決定セシメ相當ノ猶豫期間ヲ以テ此ノ種ノ課稅ヲ
實施セシムル様財政當局側ト御懇談ノ上結果御同電ヲ請フ
大臣へ轉電セリ

236 昭和8年7月11日 在滿州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿蒙毛織会社製品の付属地内消費分への満州

国課税当面差控について

新 京 7月11日後発
本 省 7月11日後着

第七三九號

本使發奉天宛電報

第七三號

貴電第二二四號ニ關シ

機製洋式貨物稅ハ元來強制的ノモノニアラス機製製品獎勵
ノ趣旨ヲ以テ一種ノ特點トシテ創定セラレタルモノニシテ
現ニ滿蒙毛織會社ニ於テハ正規ノ手續ヲ經テ該稅適用工場
タルノ指定ヲ受ケ居ルモノナル處從來出產稅ノ納付ノミヲ
以テ濟マシ居レリトセハ右ハ貴地稅局トノ間ノ了解ヲ以テ

シ駐廠員配置ハ兎モ角ナルモ課稅ノ件ハ今後ノ先例トモ
ナリ直ニ同意シ難キヲ以テ追テ大使館トモ打合セ暫ク現
狀ノ儘トセラレ度キ旨回答セシメ置キタリ

(二)本件ノ課稅ニハ滿洲國財政部當局トシテモ相當ノ理由存
スル所ナルヘキモ之ヲ當業者側ヨリ見ル時ハ其ノ稅率ノ
急激ナル變化ニ依リ蒙ル打撃大ナルヘキハ勿論更ニ一般
的二見ルモ此ニ依リ

(イ)附屬地内消費ニ對スル滿洲國側ノ課稅承認(ロ)今後此ノ
種機械製品ニ對スル洋式課稅承認ノ有無ニ關スル先例ト
ナルモノニテ偶々同工場カ現ニ問題ノ鐵西工場地域内ニ
存スル關係ヨリ本件成行ニ對シ注意ヲ拂ヒ居ルト共ニ近
時財政當局カ動モスレハ財政收入ノ見地ノミヨリ當業者
側ノ立場ヲ考慮セサル課稅態度ニ相當不滿ノ聲ヲ洩シツ
ツアリ

(三)素ヨリ當業者ニ於テモ日滿兩國ノ關係ニ鑑ミ一概ニ納稅
ヲ拒否セントスルモノニハ非サルヘキモ前記ノ如キ研究
スヘキ事情アルヲ以テ今回ノ財政當局ノ洋式課稅訓令ハ
暫ク之ヲ撤回スルト共ニ鐵西工場地域ニ對スル將來ノ一
般課稅問題ト關聯シテ全般的ニ豫メ日滿兩國當事者間ニ

指定工場タルノ特點ヲ登記シタルモノトモ解セラレ滿洲國
トシテ本件洋式貨物稅ヲ強徴シ得ヘキヤハ多少疑問アルノ
ミナラス本課稅ハ滿洲ニ於ケル毛織業ノ獎勵助長ニ關スル
根本方策ト關聯シテ合理的考慮ヲ加フルコトヲ適當トスル
地位ニアリ旁懇談ノ結果財政部ニ於テハ當分現狀ヲ維持ス
ルコトトシ不取敢貴地稅局ニ於テ本件課稅施行方一時差控
フヘキ旨命令スルコトナレリ
大臣へ轉電セリ

237 昭和8年7月26日 在奉天峰谷總領事より
内田外務大臣宛(電報)

付属地内邦商煙草工場製品の付属地外販売分
に対する納税証明事務のため個人的資格によ
る満州国側係官の工場内派遣承認について

奉 天 7月26日後発
本 省 7月26日後着

第二七七號

本官發關東廳外事課長宛電報

第二四號

過般來滿洲國ニ於テ煙草^{（煙草）}檢訖證制度實施セラレ居ル事ハ既ニ御承知ノ通ナル處現ニ奉天附屬地内ニハ日滿露各國人經營ニ係ル小規模煙草工場十一軒有リ右製品中附屬地外販賣品ハ附屬地行政權ノ建前上附屬地外ニテ賣^{（賣）}レハ檢訖證ヲ交付スル事ヲ得サル爲手續並ニ經營上非常ナル不便ヲ伴フ次第ニテ之カ爲當業者ノ一部ヨリ滿洲側係官ノ駐廠方ニ付了解ヲ與ヘラレ度旨願出有リタリ本件ハ既ニ營口東亞煙草工場ニ於ケル前例モ有ル事ニモアリ工場囑託等個人ノ資格ニ於テ駐廠ヲ認ムル事差支無キモノト思考シ在滿大使トモ了解ヲ遂ケ右様稅務監督處側ニ了解ヲ與ヘ置キタルヲ以テ右ニ御含ミアリタシ爲念

滿、大臣へ轉電セリ

238 昭和8年8月4日 在滿洲国栗原臨時代理大使より
内田外務大臣宛(電報)

チチハル在留邦人への統稅納稅指導方同地領
事宛訓令について

新 京 8月4日後発
本 省 8月4日後着

第八五七號
本使發齊々哈爾宛電報
第二三號
統稅ハ現在滿洲國ノ主要財源トシテ重要ナル地位ニ在リ我方トシテモ從來默認ノ方針ヲ執リ各地邦商モ一般ニ之ヲ納付シ來リ日本人以外ノ外國人ニ於テモ滿洲國側ノ努力ニ依リ最近遂ニ徵稅ニ應スルニ至リタル次第ナル處獨リ貴地方邦人ノミハ治外法權ヲ盾ニ其ノ納付ヲ拒ミ居ル爲稅局ニ於テ當惑シ居ル趣ヲ以テ外交部ヨリ申越シノ次第アリタリ就テハ右様ノ事實有ルニ於テハ前記事情御含置キノ上本稅納付方ニ付在留民指導方然ルヘク御配慮相成度シ

大臣へ轉電セリ

239 昭和8年11月8日 在滿洲国菱刈大使より
広田外務大臣宛

吉林省における朝鮮人農民への滿洲国粮石稅
徵稅に關し稅率改訂まで納稅差控え方在新京

總領事に指示について
公機密第一〇九二號 (接受日不明)

昭和八年十一月八日

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和八年十一月八日附 在新京總領事宛往信寫送付
機密第二四號

件 名

一、滿洲國側ノ鮮農產米ニ對スル課稅方ニ關スル件

機密第二四號

昭和八年十一月八日

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆

在新京

總領事 吉澤 清次郎殿

滿洲國側ノ鮮農產米ニ對スル課稅方ニ關スル件

本件ニ關シ客月二十五日附機密第二四九號貴信ヲ以テ御來示ノ趣了承當館ニ於テ財政部ト交渉ヲ重ネタル處同部ニ於テハ吉林省ニ於ケル現行粮石稅率(出產稅銷場稅斗稅)カ奉

天省ノ出產稅ト多分ノ開キアルハ事實ナルモ奉天省ニ於テハ出產稅ノ外水利稅ヲ存シ右兩稅ヲ合算スルトキハ大體石當リ稅額金五十錢前後トナリ吉林省ニ於ケル粮石稅負擔額ト大體同様ナルヲ以テ實質上不公平ナキノミナラス日本側ニ於テ出產稅ヲ主義トシテ默認セラルル以上兎ニ角現行稅率ノ儘之ヲ認メラルコト當然ニシテ滿洲國人生產者トノ間ニ稅率ノ異同ヲ設クルハ滿洲國人ニ對スル關係ニ於テ特ニ面白カラス旁々稅率改正ノ問題ハ之ヲ後日ニ讓ルコトトシ此ノ際差當リ現狀ニ於テ一般的ニ出產稅ノ納付方默認アリタキ旨強硬ニ要求セリ右ニ對シ當館係官ハ奉天省ニ於ケル水利稅ハ不當課稅(別紙朝鮮總督府來信寫參照)ニシテ之カ廢止ハ急速實行セラルヘキコトヲ期待シ居ルモノニ付之ヲ比較ノ基礎ニ加フルハ穩當ナラサルノミナラス吉林省粮石稅百分ノ四、二中ニハ銷場稅百分ノ二ヲ包含シ居ル處該稅ハ元來買置ヲ納稅義務者トスルカ上其ノ性質ニ於テ釐金ノ一種ト見ルヘク我方ニ於テ從來強硬ニ之カ納付ヲ拒否シ來レルモノニ付鮮農ノ負擔ニ歸セシムルコトハ飽迄承認シ得サル次第ヲ述ヘ出產稅ハ百分ノ二ニ限定スヘキコトヲ主張シ應酬ヲ重ネタルカ結局財政部ニ於テモ當方ノ主張ヲ諒

トシ近ク本稅改正ノ手續ヲ執ルヘキコトニ話合成立セリ就
テハ鮮農ノ本件出產稅納付ハ當分ノ差控ヘシムル様可然
御措置相成度

追テ右話合ハ當分極秘トシテ外間ニ洩ラササル約束ニ付御
含置相成度尙財政部ニ於テハ奉天省ニ於ケル水利稅廢止ノ
代リニ同省ニ於ケル出產稅現在百分ノ一、五ヲ百分ノ二ニ
改メ奉吉兩省ノ稅率統一ヲ期スルト共ニ吉林省ニ於ケル銷場
糧稅廢止ノ代リニ之ヲ營業稅ニ繰入レ糧穀商ニ對シ改メテ營
業稅ヲ賦課スルコトトスル見込ナル趣ナリ右御參考迄申添フ
本信寫送付先 外務大臣

奉天、吉林、哈爾賓、間島、安東、牛莊、
鄭家屯、齊々哈爾

240 昭和8年11月22日 在滿州國菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

滿州國要望の國稅賦課を一般的に承認しない
限り熱河および興安兩省への商租權擴張は困
難なる狀況について

め滿州國國稅賦課の一般的承認方請訓

新 京 12月1日後発
本 省 12月1日後着

第一四五三號
赤峰發本使宛電報第二二〇號ニ關シ

商租權ヲ熱河ニ及ホスコトニ付目下滿洲國側ト協議中ノ處
滿洲國トシテハ主義上右擴張ニ異存無キモ曩ニ商租辦法ノ
申合ニ伴ヒ滿洲國側ニ於テ商租權ヲ大正四年日支條約ノ範
圍ヲ跳越エ黑龍江省ニ迄擴張シタルニ對シ日本側ニ於テ之
カ對償トシテ當然措辦スヘシト期待シタル一般課稅ノ原則
的默認ヲ何時迄モ躊躇シ極メテ小範圍ノ稅目ニ付テノミ默
認ヲ與ヘ居ルニ過キサル現狀ニ於テ滿洲國要人ノ思惑ハ勿
論(一部ニハ商租辦法ニ付テハ日本側ニシテ遣ラレシトノ
強キ考ヲ有スルモノアル由)一般滿洲國人ニ對スル關係ニ
於テモ到底實行スルコト能ハス之カ實行ノ爲ニハ此ノ際速
ニ課稅問題ノ全般的解決ヲ爲スコトヲ要シ特ニ右解決ハ日
滿關係ノ大局ニ立脚シ專ラ政治的考慮ニ基キ爲サルヘキモ
ノナリトノ主張強ク取急キ左記案ニ依リ妥結方要望シ來レリ
(一)日本人ニ對スル內國稅ノ賦課ニ關シテハ商埠地ヲモ含ミ

第一四二四號

貴電第一〇四八號ニ關シ

課稅及警察法規トモ滿洲國側ニ於テ調査整理ノ上我方ノ承
認ヲ希望スルモノニ付「リスト」ヲ作成シ協議越スコトト
ナリ居リタル處課稅ニ關シテハ最近急ニ不取敢國稅ニ付一
般的承認ヲ要請スルコトヲ骨子トスル提案ヲ持出シ來レル
モ警察法規ニ關シテハ未タ整理付カサル趣ニテ協議ヲ開ク
運ニ至ラス或ハ右兩者トモ登記法實施ヲ見ルモ我方トシテ
ハ暫ク現狀ヲ維持スルノ外無カルヘキヤニ思考セラル尙課
稅ニ關スル前記滿洲國側提案ハ當方意見ト共ニ追而電報ス
ヘキモ先方ノ要望切ニシテ我方ニ於テ右ニ對シ一般的承認
ヲ與ヘサル限り熱河興安兩省ニ對スル商租權ノ擴張ハ到底
實現困難ナル模様ナリ

241 昭和8年12月1日 在滿州國菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

熱河および興安兩省への商租權擴張實現のた

原則トシテ滿洲國人ト同様ニ取扱フコト

(一)課稅スヘキ種目ハ田賦營業稅(牙當稅ヲ含ム)漁稅、契稅、
鑛稅(煤稅ヲ含ム)牲畜稅、出產稅、鹽稅、酒稅、菸稅、
各種統稅、印花稅、火柴公賣費タルコト

(二)課稅上紛議ヲ生シタル時ハ稅務監督局日本側領事ト商議
ノ上之ヲ解決スルコト

(三)銷場稅及水利稅ハ最近ノ機會ニ之ヲ廢止シ其ノ他ノ稅種
ニ付テモ之カ合理化ヲ計ルコト

(四)地方稅ニ付テハ差當リ現狀ノ儘トシ追テ協議スルコト
査スルニ右案ハ貴電第三五一號御來訓ノ趣旨トハ根本的ニ
相違シ原則トシテ滿洲國側ノ課稅ニ服スルコトヲ建前トス
ルモノナル處實際問題トシテハ營業稅ノ外ハ多ク既ニ默認
シ居ルモノニシテ殊ニ稅目ノ大部分ハ間接稅ナル關係上之
カ課稅ニ依リ受クル影響ハ必スシモ大ナラサルヘシト認メ
ラルル一方滿洲國側ニ於テハ近時稅制ノ整理徵稅機關ノ整
備等ニ於テ改善ノ步ヲ進ムルニ從ヒ日本人ノ課稅不服從カ
滿洲各地ニ於ケル日本人ノ膨脹ト共ニ著シク滿洲國人一般
注目ノ對象トナリ兩者間ニ存スル負擔ノ相違ハ漸次對日本
人感情ヲ惡化シ(日本人名義ヲ借りテ脫稅ヲ企ツル者所在

243

昭和8年12月6日

在チチハル内田領事より
広田外務大臣宛(電報)

商租権拡大の代償としての邦人への課税承認
には反対の旨意見具申

ラサル將來ニ於テ法權撤廢、附屬地返還ト共ニ滿洲國課税ニ服スヘキハ在滿本邦人モ亦密ニ期待シ居ル所ナルカ現状ニ於テ突如熱河、興安兩省ニ商租權ヲ認ムル代償トシテ實質的ニ最モ關係アル本件課税ヲ認ムルトセハ必然無用ノ論議ヲ惹起スヘキハ勿論附屬地居住本邦人トノ均衡ヲ失シ又一段内地居住本邦人モ急激ニ多額ノ負擔ヲ増加スルヲ以テ明カニ反對スヘシト思考ス他方右兩省ノ如キハ差當リ居住以外ノ必要ニテ商租權問題起ルコトモ多カラサルヘシト思料セラルルニ付居住ノ爲本邦人ニ數地借入ノ必要アル場合ニ於テハ當分ノ辦法トシテ賃貸借契約等ニ依ルコトトシ一定期間ノ準備ヲ經タル後政府方針ノ通り一舉ニ治外撤廢ト共ニ全般的ノ解決ヲ計ラルル方得策ナルヤニ思料セラル滿、奉天、哈爾濱へ轉電セリ

ニ現ハルル一面地方ニ依リテハ課税ニ服セサル日本人ノ爲競争上不利ノ立場ニ置カレ閉業スル者スラ相當アル由統治上頗ル不便ナル事態ヲ醸シツツアルハ否ミ難ク(殊ニ中央財政當局ヲ初メ地方税局ニ至ル迄日系官吏ニ於テ實際ノ運用ニ當リ居ル今日殊更ニ日本人ノ利益ヲ阻害スル如キ課税上ノ措置ニ出ツルコトハ萬ナカルヘキ次第ニシテ若シアリトセハ中央ニ於ケル日系官吏ノ指導ニ一段ノ留意ヲ要スルコトヲ意味ス)旁此ノ際大局上ノ見地ヨリ本件滿洲國側要望ヲ容認シ國税ノ關スル限り一般的ニ前顯諸税目ヲ默認スルコトトシ右ニ依リ滿洲國側ニ對シ我方ノ公正寛容ナル態度ヲ示スト共ニ熱河、興安兩省ニ對スル商租權ノ擴張ヲ實現スルコトト致度シ
尙本件一般的課税默認ノ結果商埠地其他日本人多數在留シ居ル地區ニ於テハ民會ノ負擔ノ外新ナル負擔加ハルコトナルヘキ處滿洲國側ニ於テハ教育施設ニ關スル日本人側特殊ノ事情ニ鑑ミ之等地區ニ付適當ナル考慮ヲ加フル用意アル趣ナリ
就テハ本件ニ關シ貴見何分ノ儀至急御電訓ヲ請フ
軍側ト打合濟

冒頭赤峰來電ト共ニ奉天、哈爾濱、吉林、間島、齊々哈爾、安東、營口、錦州、鄭家屯へ轉電セリ
赤峰へ轉電セリ

(欄外記入)

支那側ニ對スル反響ヲ考フル必要ハアルモ滿洲國ノ發展ニ件ヒ法權關係殊ニ税制問題ノ如キハ實際上漸次「リクイデート」スル方法ヲトルハ適當ト思考セラル

242

昭和8年12月6日

在安東岡本領事より
広田外務大臣宛(電報)

滿洲國課税の邦人への適用問題は治外法權撤廃と共に全般的解決を期すべき旨意見具申

第五七號

貴電合第二二二一號ニ關シ

在滿大使稟請ノ通トセハ結局附屬地以外ノ在滿本邦人ハ全部滿洲國ノ課税權ニ服スル結果トナル様存セラルル處遠カ

チチハル 12月6日後発
本省 12月6日後着

第二一四號

貴電合第二二二一號ニ關シ

商租權ヲ黑龍江省ニ延長協定成立以來當館ニ於テハ屢契約認證願ヲ受理シ登記ノ爲縣公署ニ送致シ居リ其今日迄ノ取扱件數十二件ナルカ内十一件ハ當市内又ハ接續地ノ住宅店舖又ハ工場用地ニシテ他ノ一件ハ北安鎮市内店舖用地ニ屬シ此ノ種土地ハ必スシモ商租ニ依ラストモ永代借地ノ形式ニ依リ得ヘク(北安鎮ノ如キ不開放地モ實際上可能ナラン)旁奥地農業地ヲ要スルニ至ル迄ノ間商租權ノ利用ハ左迄大ナリトハ認メ難キニ拘ラス其利用價值未タ大ナラサル權利獲得ノ代償トシテ一般在留邦人迄カ(開放地ヲ除クトスルモ邦人ハ奥地ニドシドシ入込ミツツアリ)過大ナル國税ヲ負擔スルコトトモナラハ馬ヲ獻シテ蕪ヲ得ルノ例ニ等シカルヘシ在滿邦人ノ課税問題ニ付在滿大使御意見ノ如ク滿洲國人ト同等ニ負擔スルコトハ主義上誠ニ望マシキ次第ナルモ課税ノ程度如何ハ在留邦人ノ盛衰ニ關スル重大案件ニシテ机上ノ論ヲ離レ實際ニ付テ考究ノ要アルヘク當黑龍江省

第八〇一號
貴電合第六四三號ニ關シ(番號問合中)

ハルビン 12月7日後発
本省 12月7日後着

245 昭和8年12月7日

在ハルビン森島總領事より
広田外務大臣宛(電報)

強制力を欠く滿州国課税黙認にては多大の不都合が予想されるため日滿両国間に条約締結が必要の旨意見具申

方ニアリテハ貸借ニ依リ或ハ右不可能ナラハ滿洲國人ノ名義ヲ以テ土地ヲ入手スル等ノ辦法ヲ講シ一般課税問題ハ將來商租權カ大々的ニ利用セラルルニ至ル迄特種ノモノヲ除キ主義上一切否認ノ態度ヲトルコト有利ナルヘク例ヘハ糶ニ對スル營業稅ノ如キハ稅率モ低キコトニモアリ政府トシテハ一應形式的ニ抗議スル一方實際ハ當業者ヲシテ寄附ノ名義ヲ以テ納入セシムル等主トシテ在留民ノ利害關係ヲ考量ノ上個々ノ稅目ニ付適當善處スルコト可然シト存ス大臣、奉天、哈爾賓、齊々哈爾へ轉電セリ

244 昭和8年12月7日

在吉林森岡(正平)總領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

ニ若シ已ムヲ得サル場合ハ營業稅以外ノ國稅ノミヲ承認スルコト(兒童教育費等ノ代償トシテ營業稅ノ除外ヲ主張シ得ヘシ開放地以外ニテモ内鮮人ノ入込ニ依リ學校開設ヲ要スル個所續出シツツアリ)
三、萬一營業稅ヲ負擔スル場合ニハ邦人負擔率ヲ最小限度ニ定ムルコト(利益金ノ百分ノ一位ナラハ先ツ忍ビ得ヘシ)以上ノ爲御取扱方切望ニ堪ヘス
滿、奉天、吉林、哈爾賓、赤峰、承德へ轉電セリ

滿州国課税の邦人への適用は特殊なものを除き主義上一切否認の態度をとることが有利の旨意見具申

吉林 12月7日前発
本省 12月7日後着

第三一四號

本官發滿宛電報

第二一二號

齊々哈爾發大臣宛電報第二一四號ニ關シ

本官モ全然同感ニシテ當館ノ如キモ商租協定成立後右ニ依リ土地ヲ入手セルモノハ極メテ少ク僅ニ敦化ニ於ケル滿鐵名義ノ軍用地及滿鐵社宅敷地位ノモノニシテ現下ノ趨勢ヨリ判斷スルニ本協定ヲ活用シ邦人カ内地ニ於テ土地ヲ入手セントスルモノハ當分甚タ少カルヘキ見込ナル折柄熱河ノ如キ邦人發展ノ可能性比較的少キ地方ニ於テ新ニ商租權ヲ獲得スルカ爲ニ之カ代償トシテ在滿邦人全体カ滿洲國ノ主要課税全部ヲ承認スルカ如キコトアラハ差引失フ處甚大ナリト云フヘク若シ政府ニ於テ之ヲ斷行スルトキハ大ナル輿論ノ反對ヲ豫期セサルヘカラス卑見ニ依レハ熱河ノ如キ地

ニ滿洲國人側ノ思惑モアリ日滿關係ノ大局ニ立脚シテ本件ヲ政治的ニ解決セントスル大使館側ノ意見ニハ本官トシテモ主義上同感ナルモ一方事實問題トシテ内國稅ノ關スル限リ日本人ヲ滿洲國人ト同様ニ取扱ハントスルニハ種々ノ苦情困難起ル可シ

ニ課税スヘキ内國稅中當市並ニ北滿特別區内ノ實狀ニ鑑ミ在留邦人中相當苦情アリト豫想セラルルハ營業稅酒稅印花稅等ニシテ特ニ營業稅ニ付然リト爲ス可シ何トナレハ在哈本邦人ノ如キハ地方稅タル特別市ノ營業稅以外ニ地方稅タル特別市ノ土地家屋稅ヲ支拂フ外民會ニ對シ營業者ニ課セラルル乙種賦課金ヲ納付シ居ルヲ以テ此ノ上更ニ國稅タル營業稅ヲ負擔スルコトニハ甚シキ難色アル可ク殊ニ稅率ノ如キモ割合高率ニシテ例ヘハ二萬五千圓ノ資本ヲ有スル營業者ノ年稅額一千圓ニ達スルコト(課稅額ハ資本金額ヲ小額ニ申告スルニ依リ事實上伸縮性アリ)ハ一層事態ヲ困難ナラシムル惧アリ

ニ奉天等他地方ニハ國稅營業稅ヲ徵收スル代リニ地方稅營業稅ヲ廢止シ右財源廢止ニ依ル收入減ヲ中央ヨリ地方官廳ニ補填シ居ル處當地滿側地方官廳ハ營業稅(地方稅)ヲ廢止

サルルニ於テハ財政上ノ遺繰不可能ナル狀態ナルニ付若シ營業稅(地方稅)ヲ廢止サルルニ於テハ自然中央ヨリ相當額ノ行政費ノ補助ヲ仰カサル可カラサル處右ハ必スシモ簡單ニ實現セラレサル可ク結局本邦人トシテハ新ニ營業稅(國稅)ヲ負擔スルコトナル可シ

四、當地ノ關スル限り本邦人ニ營業稅ヲ新タニ賦課スルノ困難ナル事右ノ如クナルニ付本官トシテハ本件根本策トシテ(一)國內稅賦課ニ付テハ開市場ヲ除外ス奥地ニ付テハ新タニ商租權居住權ヲ得タル代價トシテ一般內國稅ヲ賦課スル事不合理ニ非サルハ勿論多年開市場ニ營業シ來リタル邦人ニ新タニ稅金ヲ課セラルル場合ト異リ納稅者側ニ於テモ別段異存無カルヘシ

(二)然ラスンハ國稅ノ內營業稅ヲ除外スル事
(三)右(二)トモ實行不可能ノ場合ニハ當市並ニ北滿特別市ニ關スル限り中央ト地方トノ間ニ協定成立スル迄營業稅ノ賦課ヲ差控ヘ以テ二重徵稅ヲ避クル事絕對ニ必要ナリ(此ノ點ニ付テハ恐ラク中央ニ於テ北滿特別區ノ特殊事情ニ關スル認識不充分ナルヘキニ依リ充分説明ヲ加ヘラルル様致度シ)

編 注 同八日發訂正電により本引用電報は「在滿大使發大

臣宛電報第一四五三號」と訂正。

246 昭和8年12月8日 在奉天峰谷總領事より
広田外務大臣宛(電報)

滿州國課稅承認問題に關し日滿兩國の委員會
設置による稅目檢討方および課稅承認の場合
の要望事項につき意見具申

奉 天 12月8日後發
本 省 12月8日後着

第四四二號
貴電合第二二二號ニ關シ

在滿大使館ニ於テ滿洲國側ノ意向ヲ參酌セラレ大局の見地ヨリ解決ヲ計ラレントスル御趣旨ハ誠ニ御尤ナルカ本件ハ其影響スル所鮮カラサルヘキニ鑑ミ在留民側二三關係ノ向ニ付其意見ヲ内査シタル所ヲ卑見ト共ニ左ノ通り
一、本件大奉仕力在留邦人側ニ相當衝動ヲ與ヘ反對ノ聲ヲ舉クヘキ懸念アル事ハ各地領事具申ノ通りト思考ス當館管内ニ於テモ本年一月以降十月中旬迄ノ當館受理ノ邦人商租新

兵納稅ヲ「默認」スル事ハ在滿大使發閣下宛電報第一四五三號第三項ノ次第モアリ實際ニ於テハ「承認」ト異ラサルヘク然モ強制力ヲ缺如セル爲多數滯納者ヲ生スルハ免レサルヘキ處右様ノ狀態ノ下ニ於ケル出先領事ノ遭遇スル困難ノ多大ナルヘキ事ハ豫想ニ難カラス就テハ本件根本的ニ解決ノ曉ハ日滿間條約ノ形式ヲ以テ取極ヲ爲シ強制力ヲ與フル事必要ナリト思考ス尙內國稅ノ賦課默認ノ場合ニハ本邦居留民ニ對シ事態ヲ説明シ進テ納稅スルノ機運ヲ作ルノ要アルヘク商租制ノ擴張ト關聯シ然ルヘク説明ヲ爲スノ外無キ處對樞密院關係等ニモ鑑ミ如何ナル説明方法ヲ執ラルルヤ豫メ御考慮相成置ク事然ルヘシト存ス

六、貴電末段ニ依レハ教育施設ニ關スル日本側特殊ノ事情ニ對シ滿洲國側ニ於テ適當ノ考慮ヲ爲ス用意アル趣ナルカ此ノ點ハ邦人ヲシテ納稅セシムル上ニ於テ重要ナル關係ヲ有スルニ止ラス教育施設上各地トモ多大ノ關心ヲ有スル點ナルニ付此ノ際明確ニ文書ヲ以テ取極ムルノ要アリト存ス
滿、奉天、吉林、間島、齊々哈爾、安東、營口、鄭家屯、錦州ニ轉電セリ

契約件數ハ合計二百三十五件其面積約七萬二千畝ナルカ其大部分ハ東亞勸業(二百十五件)及滿鐵昭和農業公司ニテ一般在留民ノ商租件數ハ漸ク十四件其面積千畝ニ達セス右ノ通り故形式上黑龍江、熱河兩省ニ商租延長ヲ理由トシテ商租ト直接關係ナキ或種ノ課稅ヲ商埠地ニ迄適用スル事ハ非合理的ナリトノ印象ヲ與ヘ易ク右稅目中ニハ舊軍閥當時之ヲ邦人ニ適用スル事ノ不當課稅ナルヲ主張シタル經緯モアリ又營業稅及出產稅等ニ付テハ附屬地內同業者トノ間ニ均衡ヲ失スルモトシテノ批難ヲ受クル俱アルモノト認ム殊ニ阻止スルモノトシテノ批難ヲ受クル俱アルモノト認ム殊ニ出產稅ニ付テハ曩ニ本官發在滿大使宛往電第二二三號滿蒙毛織ノ如キ事情モアリ其他工業地トシテ發展セントスル當地トシテ種々問題ヲ惹起スヘシト思考セラルル從ツテ希望トシテハ課稅問題モ今暫ク現状ノ儘トシ其間往電第一一七號ノ如キ專門委員會設置ニ依リ各種課稅ニ伴フ彼我ノ利害關係ヲ實際的立場ヨリ檢討シタル上成ル可クハ治外法權撤廢ト同時ニ又已ムヲ得サレハ其以前ニ於テ一定ノ猶豫ヲ置キ實施スル事妥當ナラスヤト存セラル
ニ去リ乍ラ此ノ際在滿大使館トシテ何等カ對償ヲ與ヘ滿洲

國側ヲ納得セシメサルヘカラサル事情モ之アルニ於テハ左記ノ點御考量煩ハシ度シ

(イ)⁽²⁾ 本件課稅適用區域ヨリ城内ヲ除キ商埠地ヲ除外ス

(ロ) 營業稅ヲ除外スルコト其他ノ稅目(就中出產稅)ニ付テハ同稅賦課ノ爲附屬地内同業者又ハ外國人商社トノ間ニ負擔ノ均衡ヲ失スルモノニ付テハ其一部ヲ免除其他適當ニ考慮ノコト

(ハ) 新附加稅例ヘハ印花稅等ニ付テハ實施前一定ノ猶豫期間設置

(ニ) 水利稅撤廢ノ時期(銷場稅ハ奉天省ニ關スル限り既ニ撤廢セラレ居ル由ナリ)ヲ此ノ際明示セラレ度シ

(ホ) 課稅ノ適用ト徵稅其他脫稅防止ノ爲ニスル權力ノ行使トヲ截然區別シ所謂抽銷員^(駐廠員)ノ派遣等ハ事前ニ領事館ト聯絡ス

(ヘ) 今後稅率ノ引上ケ又ハ事實上之ト同一ノ結果ヲ生スル變更ニ付テハ豫メ大使館ト協定ス

(ト) 現在在留民ノ増加ニ伴ヒ民會ノ教育經費負擔増加シ居ルニ顧ミ今回ノ取極ト同時ニ之等各稅收入ノ一定額ヲ邦人教育費ノ一部トシテ民會ヘ補助セシメタシ

三 序々ラ滿洲國人カ邦人ニ對スル課稅無キコトヲ以テ日本

三 滿州國との諸案件交渉

化、新站、蛟河等ノ地方ニ對シ特ニ滿洲國カ考量ヲ加フルコトヲ條件トシテ我方カ營業稅ヲ默認スル場合ニ付考察スルニ十日吉林省ニ於ケル營業稅ハ國稅賣上高ノ百分ノ二、地方附加稅同百分ノ一、五計三分五厘ナルカ交渉ノ結果假ニ百分ノ一ニ輕減セシムルコトトシテ計算スルニ一年一萬圓ノ賣上高ヲ有スル小賣人ノ負擔ハ年額百圓トナリ之ヲ現在民會費ノ負擔額ニ比スレハ實ニ五倍ノ多額ニ達シ在留民ヲ承服セシムルコト絶對ニ困難ナルノミナラス滿洲國側ノ考フル合理的若ハ特殊ノ考量ナルモノハ日本人ノ考フル合理的若ハ特殊ノ考量ト多大ノ相違アリテ現ニ去ル八月吉、敦沿線ニ於ケル伐木ニ對シ財政部ハ突然從來ノ約六倍ニ相當スル國稅ヲ課セントシ爾來本邦當業者對財政部間ニ引續キ交渉中ナルモ今尙妥協ニ至ラサル事情ニ徴スルモ明白ナルヲ以テ此ノ際一般國稅默認ニ關シテハ特ニ慎重ナル考慮ヲ要スヘク根本的ニ立論セハ滿洲國人ニ比シ平均五倍ノ高キ生活程度ヲ有スル本邦人カ滿洲ニ於テ滿洲國人ト競争スル爲ニハ滿洲國人ヨリ稅金ノ少キコトカ唯一ノ武器ナレハ滿洲國側ノ主張スルカ如ク原則トシテ日滿人ヲ課稅上同一ノ「レベル」ニ立タシムルカ如キハ理論上ハ兎モ角斯クテ

側ニ對シ反感ヲ抱キ居ルトノ點ハ其實無キニハ非サルヘキモ現在彼等ノ抱懷スル對日不滿ナルモノハ斯ル課稅問題ニハ之無ク今少シク根本的ナル問題即チ我方殊ニ日系官吏ノ滿洲國人ニ對スル指導方針ノ如何ニ懸ルモノト存シ居リ從テ此根本的問題ニ付深甚ナル考慮ヲ廻ラサル限り二、三ノ課稅問題解決位ニテハ到底彼等ノ不平ヲ緩和スルニ至ラサルヘキヤヲ恐ル御參考迄

滿ヘ轉電シ哈爾賓、吉林、間島、齊々哈爾、安東、牛莊、錦州、鄭家屯、赤峰ヘ暗送セリ

247 昭和8年12月8日 在吉林森岡總領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

滿洲國營業稅賦課につき在留邦人の同意を得ることは全く困難なる旨意見具申

吉林 12月8日後発
本省 12月8日後着

第三一五號

滿發閣下宛電報第一四五三號ニ關シテハ不取敢滿宛電報第二一二號ヲ以テ卑見開陳ノ處吉林及多數在留民ヲ有スル敦

ハ實際上在滿邦人將來ノ發展ヲ全然望マレサルノミナラス行々ハ現在ノ在留民モ滿洲ヨリ退却ノ外ナカルヘシ滿、奉天、哈爾賓、齊々哈爾ヘ轉電セリ

248 昭和8年12月8日 在ハルビン森島總領事より
広田外務大臣宛(電報)

滿洲國課稅承認問題の性急解決は治外法權の放棄として在留邦人の非難を招きひいては我が方内政問題化の危険が大なる旨意見具申

ハルビン 12月8日後発
本省 12月8日後着

第八一二號
往電第八〇一號ニ關シ

同電第五項乃至第六項ノ點ニ付更ニ熟考ノ結果卑見左ノ通り重ネテ申進ム

所謂「默認」カ實際ニ於テ「承認」ト異ラサルヘキ次第並而モ強制力ノ伴ハサル結果多數滯納者ヲ生スヘキコト同電第五項申進ノ通ナルカ納稅獎勵若ハ滯納稅ニ關スル措置ハ自然出先領事ニ於テ取計ハサルヲ得サルヘク結局當地在留

249

昭和8年12月9日

在満州国菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

民カ哈爾賓市税タル營業税及土地家屋税ヲ滞納シタルカ爲
嘗テ八木總領事時代並過般本官ニ於テ處置シタルト同様税
金滞納カ問題化スルニ至リ何等カノ方法ヲ案出シテ其ノ時
ニ於テ解決スルカ如キ不愉快ナル事態ヲ繰返ス惧アリ然ル
ニ過般本官ノ右滞納問題處理カ其ノ金額相當ニ上リ納税者
タル在留民側トシテハ財政上ノ負擔相當ナリシモノアリシ
ニ拘ラス兎モ角モ滞納分ノ納付ト將來ノ納税トニ異議ヲ挿
マス圓滿ニ纏マリタルハ

(イ)英露協定以來ノ沿革

(ロ)八木張煥相間ノ納税ニ關スル取極ノ存在並

(ハ)市税滞納者ニ對シテハ市當局ニ於テ土地家屋等ノ權利ニ
關スル登記ヲ拒絶シ居ルコト及

(ホ)市ヨリ居留民ニ對シ滞納税納付ノ代償トシテ國幣一萬六
千元ノ寄附ヲ爲スコトナリタルノミナラス將來ニ於テ
モ同様取計方ノ打合アルコト

等比較的好條件備ハリ居リタルニ依ルモノニシテ今後外務
省側カ本件ニ默認ノ形式ニ依リテ承認ヲ與ヘタリト云フニ
過キサル國税ノ納付及其ノ滞納ニ關シ如何ナル説明ヲ試ミ
ルトスルモ出先領事ニ於テ果シテ善處シ得ルヤ否ヤ頗ル疑

ヤニ付テハ各地共未タ確タル資料無キ現狀ニ於テハ條約ニ
依リテ本件ノ解決ヲ計ラントスル場合ニ於テモ一應居留民
ノ負擔増加ニ付根本的調査ヲ遂ケ置クコト萬全ノ策ニシテ
取急キ火急ニ本件解決ヲ斷行スヘキ絶對的理由アルヘシト
モ存セラレス尙條約ノ形式ニ於テ國税賦課ヲ承認スル場合
ニ於テモ冒頭往電ニ依リ御承知ノ適當地方ノ如キ二重又ハ三
重ニ課税セラルル特殊ノ事情ヲ有スル土地ニ對シテハ少ク
トモ現在民會カ負擔シ居ル教育費即チ民會總經費ノ大部分
ハ之ヲ滿洲國側ヨリ支出セシメ以テ民會ニ對スル居留民ノ
賦課金率ヲ最少限度迄輕減セシムルコト絶對的ニ必要ナリ
ト存ス實際民間側トシテハ一般ニ甚タ縁薄キ熱河方面ノ商
租權確得ノ爲過重ノ負擔ヲ強ヒラルルカ如キハ直ニ意外ナ
リトノ感想ヲ懷クコト必然ニシテ前述ノ如キ内政問題化ス
ルノ危險大ナリト思考スルニ付本件取扱ニ付テハ充分慎重
ニ御考慮アリテ然ルヘシト存ス

冒頭往電ノ通轉電セリ

問ト爲ササルヲ得ス

然⁽²⁾モ商租土地關係ノミノ税ト異リ今回ノ如キ一般國税ノ賦
課ハ治外法權問題ニ對シ所謂民間側最近ノ風調ニ鑑ミ民間
ノ不平ヲ買ヒ遂ニハ外務省ハ所謂默認又ハ滿洲國側トノ内
面的諒解ノミニ依リテ治外法權其ノモノノ大半ヲ放棄セリ
トノ非難ヲモ惹起セシメ居留民大會又ハ陳情委員ノ上京等
ノ方法ニ依リ問題ヲ激化セシムルノ可能性甚タ多大ニシテ
斯クテハ自然對樞密院關係等ニ於テ結局條約大權侵犯等重
大ナル内政問題ヲ惹起スルコト必然ノ結果ト存セラル果シ
テ然ル場合トモナラハ出先領事ハ統制ヲ失フニ至リ折角取
極メラレタル納税問題モ納税者タル本邦人側ノ自由意志ニ
委セララルコトナリ却テ事態ヲ紛糾セシメ對滿洲國側關
係ニモ豫期ニ背キタル不慮ノ結果ヲ招來スルニ至ル處無キ
ニ非スト思考セラル

卑見上述ノ通ニ付本件一般國税賦課ノ問題ハ矢張り外務省
限りノ默認ノ形式ニ依ル一見簡單ナルカ如キ方法ヲ避ケ寧
ロ此ノ際治外法權撤廢ノ第一步トシテ正式ノ手續ヲ履ミ在
留日本人ヲシテ滿洲國稅負擔ノ義務ヲ負ハシムル方可ナリ
ト信ス殊ニ國稅賦課後ニ於ケル居留民ノ負擔ノ幾何ニ上ル

治外法權を有する在留邦人への満州国国民の 社会的不公平感正の観点から課税承認問題 に政治的配慮を要望方意見具申

新 京 12月9日後発
本 省 12月9日後着

第一四八九號(至急)

往電第一四五三號ニ關シ

各地領事ノ意見誠ニ無理カラヌ儀ト存セラルル處當方電稟
ノ趣意ヲ單ニ商租權ノ熱河、興安兩省ヘノ擴張ヲ實現セシ
メンカ爲之カ代償トシテ邦人ノ一般的課税默認ヲ行フ可シ
ト言フニ非ス曩ニ商租辦法ノ申合セニ依リ滿洲國ニ於テ黑
龍江省ヘ商租權ヲ擴張シタル結果ハ商租權ノ承認カ其ノ前
提ニ於テ居住營業ノ自由ヲ包含スル關係上同省全部ヲ事實
上日本人ニ開放シタルニ等シク即チ從來開放地以外ニ居住
營業及地權獲得ノ自由ナカリシ邦人ニ對シ本辦法ノ結果ト
シテ新タニ奉吉兩省ニ於ケルト同様ノ地位ヲ承認スルコト
トナリ而モ是等邦人ハ到ル處滿人ト相竝ンテ各種營業ニ從
事シ等シク滿洲國側施政ノ恩惠ニ浴スルニ拘ラス一般滿人
ト異リ治外法權ノ保護ノ下ニ右國家施政ノ恩惠ニ對シ課税

負擔ヲ排除シ毫モ報ユル所ナキ地位ニ置カルルニ至リタル次第ナリ右ノ事實ハ滿洲國要人ハ勿論一般滿人ニ對シ社會的不公正トシテ鮮カラサル不安及不快ノ念ヲ與ヘ延テ一般統治上ニモ困難ナル事態ヲ醸ス可キハ始メヨリ豫想セラレタル所ニシテ商租辦法申合せノ當初ヨリ滿洲國側ニ於テ深ク懸念シ我方ニ對シ深甚ナル考慮ヲ希望シタル點ナリ
 今次我方ニ於テ熱河興安兩省ニ對シ商租權ノ擴張ヲ希望セルニ對シ滿洲國ニ於テ本件課税問題ヲ持チ出シタル所以モ單ニ技術的ニ商租權ノ擴張ト一般の課税默認トヲ交換セントスルノ意ニ非スシテ此ノ機會ニ上記事情ニ基ク社會的不公正ヲ是正シ滿洲國全領域ヲ日本人ニ開放シ居住營業及地權ノ取得ヲ承認スル代リ日本人ニ於テ冒頭往電列舉ノ國稅ノ範圍ニ於テ滿洲國課税ニ服シ滿人ト等シク國費ノ負擔ヲ分タン事ヲ期待スルノ謂ニ外ナラス右ハ邦人カ北滿ヲ始メ熱河方面ニ日々多數ニ進出シ今後益々其ノ傾向擴大セントシツツアル事實ニ照シ無理カラヌ要望ト言フヘク我方トシテモ本件課税ノ一般的默認ニ依リ邦人ノ發展ヲ不可能ナラシムルニ非サル限り右要望ヲ容認シ日滿不可分ノ關係ニ即從セシムル事必要ト存ス就テハ現下日滿關係ノ大局ニ立

人發展ノ現状ニ徴シ緊急事トス現ニ興安南分省王爺廟ニハ鮮農百六戸五百餘名水田耕作ニ從事シ居ル處本年七月右鮮農カ水田灌溉用水ヲ多量ニ引キタル結果蒙古人ノ乾田ニ浸水シ耕作不能トナリタリトテ同省側ノ意嚮ハ一般蒙古農民保護ノ建前ヨリ今後ハ此ノ種水田耕作ヲ禁シ外國人ノ土地貸借ヲ認メサル方針ナリトサエ聞キ及ベルニ付(本件ハ目下交渉中ニ屬ス)此ノ際土地取得ノ權ヲ確保シ置ク事必要ナリト認ム
 滿ヘ轉電セリ

251 昭和8年12月13日 在チハル内田領事より
 広田外務大臣宛(電報)

今次の滿州国課税承認問題は対象を土地商租權者に限りそれ以外への課税は治外法権の一部撤廃問題として別途考究すべき旨意見具申

チハル 12月13日後發
 本省 12月13日後着

第二二一號

貴電合第二二二號ニ關シテハ往電第二二四號ヲ以テ申進

脚シ滿洲國指導上ノ政治的考慮ニ基キ本件解決方御考究アラン事切望ニ堪ヘス
 奉天、哈爾賓、吉林、間島、齊々哈爾、安東、牛莊、錦州、赤峰、鄭家屯ニ轉電セリ

250 昭和8年12月9日 在鄭家屯石塚(邦器)領事代理より
 広田外務大臣宛(電報)

興安省への商租權拡充は邦人發展の現状から緊急事であり營業税を除く滿州国國稅承認は差支えない旨意見具申

鄭家屯 12月9日後發
 本省 12月10日前着

第六〇號

貴電合第二二二號ニ關シ

一、現状ヨリ見レハ營業稅ヲ除キ國稅ニ關スル限り默認差支無キヤニ存セラル但シ營業稅ノ承認ハ邦人ニトリ民會費負擔ト共ニ二重ノ課税ニ服スル結果トナルヘキニ付慎重考慮ヲ要スルモノト思考ス

國稅承認ノ代價トシテ興安省ニ商租權ヲ擴充スル事ハ内鮮

ノ次第アルモ更ニ左ノ通り追電ス

一、滿洲ニ於ケル日本ノ「ステータス」ハ事變以來一變シ舊政權時代ニハ夢想タモセサリシ我軍ノ奧地駐兵權トナリ之ニ伴ヒテ直接間接二軍ノ生活上必要ナル邦人ノ奧地進出ヲ馴致シタリ即チ現在ノ當地方奧地居住邦人ハ悉ク此ノ種進出者ニシテ右ハ寧ロ日滿議定書ニ依リ認メラレタル我駐兵權ニ伴フ必然ノ事態ト稱スヘク在滿大使發閣下宛電報第一四八九號所述ノ如ク商租辦法ヲ黑龍江省ニ及ホシタル結果ニ依ルモノニ非ス

二、然ルニ日滿議定書ニ依ル我駐兵權ニ伴フ必然ノ軍隨伴者ノ奧地進出ト偶々時ヲ同フシテ未タ殆ト實効ナキ商租辦法ヲ認メタル故ヲ以テ軍隨伴者ニ對シ商租辦法ニ依リ課税スルノ結果トナルハ商租辦法ノ濫用ニ非スンハ其詭計ニ陥リタルモノ見ラレサルヲ得ス

三、更ニ又在滿大使館側御意見ニ依レハ本件課税問題ハ技術的ニ商租權ト課税權トヲ交換セントスルモノニ非ス日滿兩國ノ大局の見地ヨリ邦人ヲ滿人同様ノ課税ニ服セシメ以テ日滿兩國人ノ社會的不公平ヲ是正セントスル趣旨ノ如クナルカ果シテ然ラハ右ハ既ニ商租權ヲ離レタル治外法權ノ一

部撤廢問題ト見ルヲ妥當トスヘク此ノ際商租權ト關聯シテ
論議スルハ事宜ニ適セサルヤニ存セラル

四以上ノ如ク當省ノ關スル限リ商租辦法ハ未タ殆ト實効ナ
キニ拘ラス極メテ廣汎ナル義務ノミヲ負擔スルハ不合理ノ
結果トナルハ要スルニ商租辦法ニ依ラサル奧地進出ニ對シ
商租條約ヲ適用セントスル無理ヲ押通サントスルニ依ルモ
ノノ如ク若シ商租辦法ヲ利用スルモノニ對シテノミ其義務
ヲ負擔セシメントセハ問題ハ極メテ簡單ナルヘシ

五卑見ニ依レハ現在ノ奧地進出邦人ノ多クハ商租辦法ニ依
ルモノニ非サル點ヲ高唱スルト共ニ今次課稅問題ハ形式上
少ク共商租權ニ立脚スルモノナルヲ以テ其適用ハ土地商租
權者ニ限ルコトトシ夫レ以外ノ一般邦人課稅ハ商租問題ト
切離シ治外法權ノ一部撤廢問題トシテ別途考究スルコトト
セハ理論上ニ於テモ將又實際上ニ於テモ無理ナクシテ一應
ノ解決ヲ見出し得ルヤニ存ス何分ノ御高配ヲ仰ク
滿、哈爾賓、奉天、間島、吉林、牛莊、安東、鄭家屯へ轉
電セリ

~~~~~

記ノ如キ諸條件ヲ附スル必要アリト存セラル

一、滿洲國ハ成ルヘク速ニ稅制ノ整理徵稅機關ノ整備ヲ實行  
スルコト

二、納稅告知書及領收證等ニハ日本文ヲ併用スルコト

三、徵稅官吏ノ素質ヲ改善シ樞要ナル地區ニハ日系稅吏ヲ置  
クコト

四、稅目及稅性質ヲ明カニシ豫メ之ヲ一般ニ宣布説明スルコト  
五、稅率及稅額等ニ付テハ此ノ際邦人ノ現狀ヲ考慮ニ置キ日  
本側ト協議確定スルコト

六、營業稅ハ賣上高等ヲ標準トセス收益例ヘハ民會宛申告ノ  
年收額ヲ基準トシ之ニ對スル納稅義務者ノ異議ノ申立ニ  
付テハ再査定ノ方法ヲ講スルコト

七、教育施設ノミナラス民會ニ於テ經營スル各種公共事業ニ  
付テハ一定ノ標準ニ依リ相當ノ補助ヲ與フルコト

八、滿洲國ハ成ルヘク速ニ日本人ノ土地所有權ヲ認ムルコト  
元來當館管轄間島地方ニ於テハ商埠地外在住鮮人ハ從來ト  
テモ滿人同様國稅及地方稅等ノ課稅ニ服シ來リタルヲ以テ  
是等鮮人ニ關スル限リ本件辦法成立スルモ何等特ニ苦痛ヲ  
感スル次第ニアラサルコト勿論ナルモ商埠地内居住内鮮人

252 昭和8年12月14日 在間島永井(清)總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

滿洲國指導の立場にある我が方体面上速やか  
に課税を承認すべき旨および承認の際に付す  
べき条件に関し意見具申

間島 12月14日後発  
本省 12月15日後着

第三七八號

貴電合第二二二一號ニ關シ

帝國臣民ノ土地商租權ハ臨時申合セ二十二日ヨリ愈實施セ  
ラレ其ノ基本條約タル大正四年ノ日支條約ニ規定セル地域  
ヲ逸脱シテ既ニ黑龍江省ニモ及ホシ更ニ之ヲ熱河省ニモ擴  
張セントスルニ當リ同條約ニ依リ邦人側ノ義務課稅ノ概括  
的實施ニ付之レ以上時日ヲ遷延スルニ於テハ滿洲國指導ノ  
立場ニアル帝國ノ体面上甚タ面白カラサル次第ニ付今回課  
稅ニ關スル滿洲國側ノ要望ニ對シテハ最モ好意的態度ニ出  
テ速ニ國稅ニ限り臨時妥當ナル辦法ヲ講シテ之ニ應スルヲ  
得策ナリト認ム尤モ其ノ際滿洲國現下ノ徵稅狀況、我方居  
留民突然多大ノ負擔並本辦法ノ臨時性等ニ鑑ミ少クトモ左

ハ他地方ト同様ノ地位ニ置カルコトトナリ現ニ各地内鮮  
民會トモ會費滯納者鮮カラサル有様ナレハ新負擔ニ依リ相  
當苦痛ヲ感スルコトナルヘク殊ニ田賦及營業稅等ニ付多  
數ノ滯納者出ツヘキコト豫想スルニ難カラサルニ付前記諸  
條件中稅率ノ低下及民會公共事業等ニ對スル補助ニ關シテ  
ハ特ニ重キヲ置ク必要アリト認メラル

滿ヨリ赤峰、錦州、營口、安東、鄭家屯へ轉電アリタシ  
(滿脫?)奉天、吉林、哈爾賓、滿洲里、齊々哈爾へ轉電セリ

~~~~~

253 昭和8年12月15日 在奉天峰谷總領事より
広田外務大臣宛(電報)

滿洲國における邦人發展阻害の虞れる課税
承認には同国財政援助の目的であっても反対
の意見具申

奉天 12月15日後発
本省 12月15日後着

第四五四號

在滿大使發閣下宛電報第一四八九號ニ關シ
一、滿洲國成立以來舊軍閥當時ノ邦商ニ對スル不當課稅壓迫

問題解消セルコトハ事實ナルモ一方統税ノ如ク滿洲國ナルカ故ヲ以テ敢テ默認セシメラレタルモノアルコトモ事實ニテ其他滿蒙毛織ニ對スル出產税(在滿大使宛拙電第二二四號)酒類ニ對スル内地消費税(機密第六六四號拙信)等突然ノ課税要求ヲ受ケ問題ヲ生シタルコトアリ此ノ外内國税問題ト直接關係無キモ輸入關稅徵收ノ爲ノ小包郵便課税問題或ハ奧地行貨物ニ對スル護照問題等滿洲國日系財政當局ノ措置ニ對シ在留民側ノ不滿絶ヘサル現狀ナリ

ニ滿洲國ノ財政確立ニ對シ在留邦人カ欣然援助ノ意志アルコトハ申迄モ無シサリ乍ラ實情ニ即セス邦人ノ對滿發展ヲ

阻害スル惧アル無斷ノ徵稅方針ニ對シテハ假令財政收入ノ爲トハ云ヘ之ニ反對スルコト必然ナルヘシ邦人ト滿人トノ不均衡ニ對シ滿人側ニ不平アリトハ日系財政當局ノ言トシテ聞カルル以外滿人間ニ果シテ強キ其聲アリヤ研究ノ餘地アルヘク日系當局指導上ノ在滿大使館御苦心ノ點ハ察スルニ余アルモ眞ノ對滿政策ハ日系當局以外一般滿人ノ聲ニ聞クヘキモノナルコト申迄モ無カルヘシ御參考迄

滿、哈爾濱、吉林、營口、安東、齊々哈爾へ轉電セリ

四 塘沽停戰協定善後交渉

254 昭和8年5月24日 在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

中国側の対日態度は正に関する黄郛との会談
要領について

北平 発
本省 5月24日後着

第二二七號(極秘)

往電第二二五號ニ關シ

二十三日黃郛トノ會談要領左ノ通(列席者李澤^{澤カ}、藤原武官、原田、永津武官(途中參加))

一、先ツ本官ヨリ北支ノ現下ノ事態カ國民黨及中央軍カ帝國政府並ニ關東軍ノ信用ヲ得サル所ヨリ生シタル所以ヲ説明シ忌憚無ク言ハハ我軍部ノ大部分ハ國民黨及中央軍ハ其ノ根本ニ於テ排日思想ニ立脚シ居ルヲ以テロニ誠實ヲ唱フルモ夫ハ單ニ表面ニ過キスシテ何等カ機會サヘアラハ排日ヲ實行セントシ居ルモノナリトノ感想ハ軍部ノ頭ヨリ去ラサ

ル所ナリ故ニ現北支ノ局面ヲ打開スル唯一ノ方法タル停戰ニ付テモ支那側ニ於テ關東軍ノ疑念ヲ一掃スルニ足ル方法ヲ以テ諒解ヲ求ムレハ必スシモ難事ニ非スト思考スト述ヘ此ノ難局ニ處スル決心アリヤト尋ネタル處黃ハ同盟會ニ屬シ居リ過去ニ於テ國民黨ニ對シ孤軍奮闘シ來リタル經歷ヲ語り日支親善ニ依リ歐米人ニ漁夫ノ利ヲ占ムル機會ヲ與ヘサルコトニ努メサルヘカラストスル自身ノ信念ヲ述ヘ右關東軍ノ諒解ヲ得ル方法ニ付教ヲ請ヒ度シト言ヘルニ付本官ハ余ノ考フル所ハ唯一ノ方法ニシテ之ヲ實行シ得ストスレハ余ノ腦裡ニハ他ニ代案無キ旨ヲ懇説シタル上何應欽ヨリ軍使ヲ關東軍第一線ノ指揮官ニ送り停戰ヲ求ムルニ在リ之レ關東軍ヲ納得セシムル唯一ノ方法ナルカ貴下ハ之ヲ實行スル決心アリヤト質シタル處黃ハ自分ハ實行スル決心ヲ爲シタルモ何ニモ相談スル要アルヲ以テ今此ノ場ニテ決定スルヲ得スト述ヘタルニ付本官ハ此ノ決心付カサレハ之以上ノ會談ハ無益ナルカ貴下ノ考ヘニテハ實行セラルル見込アリ